

葛城市當麻複合施設整備基本計画（案）  
（資料編）

令和5（2023）年3月

葛城市

## 目次

<b>1 他計画等との関連について</b> .....	- 1 -
(1) 葛城市第二次総合計画(平成 29(2017)年3月策定).....	- 1 -
(2) 第2期葛城市総合戦略(令和2(2020)年3月策定).....	- 1 -
(3) 葛城市都市計画マスタープラン 2017(平成 29(2017)年7月策定).....	- 1 -
(4) 葛城市立地適正化計画(平成 29(2017)年 11 月策定).....	- 1 -
(5) 葛城市公共施設マネジメント基本計画(平成 28(2016)年3月).....	- 2 -
(6) 葛城市公共施設等総合管理計画(令和4(2022)年度改定予定).....	- 2 -
(7) 葛城市地域防災計画(平成 29(2017)年4月策定).....	- 2 -
(8) 第2期葛城市教育大綱(令和3(2021)年3月策定).....	- 2 -
(9) 葛城市子どもの読書活動推進計画(平成 27(2015)年6月策定).....	- 3 -
(10) 葛城市業務継続計画(平成 29(2017)年3月策定).....	- 3 -
(11) 葛城市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)(令和5(2023)年3月策定).....	- 3 -
<b>2 市民アンケート</b> .....	- 7 -
(1) 調査結果(クロス集計).....	- 7 -
(2) 要点整理のためのグループ別傾向分析.....	- 20 -
(3) まとめ.....	- 31 -
<b>3 市民ワークショップ</b> .....	- 35 -
3-1 市民ワークショップの概要.....	- 35 -
(1) 実施目的.....	- 35 -
(2) 実施方法.....	- 35 -
(3) 開催の経過.....	- 36 -
3-2 ワークショップの記録.....	- 36 -
(1) 第一回「地域の特徴を確認しよう」.....	- 36 -
(2) 第二回「出会いの場を検討しよう」.....	- 42 -
(3) 第三回「施設機能案を検証しよう」.....	- 44 -
3-3 まとめ.....	- 50 -
3-4 参考資料.....	- 51 -
<b>4 市職員・関連団体インタビューワーク</b> .....	- 70 -

## 1 他計画等との関連について

### (1) 葛城市第二次総合計画(平成 29(2017)年3月策定)

平成 29(2017)年度から平成 38(2026)年度の 10 年間という長期的視点に立ったまちづくりを進める方針です。葛城市第二次総合計画では、今後重要となりうる国や県、市の動向として、公共施設マネジメント(公共施設の適正管理)の推進、コンパクトなまちづくり(立地適正化)の推進等が挙げられています。また、「政策の柱 2 壮健・学習 ～心と身体が健やかに育まれるまち～」、「政策目標 2 教育・学習による未来の市民づくり」、「施策目標 2 基礎学力の向上や社会を生き抜く力の養成を進める」における達成度を測る指標として、市民一人当たりの貸出冊数を 5.5 冊としています。更に、「政策目標 3 生涯学習による豊かな心の涵養」、「施策目標 1 芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する」において達成度を測る指標として、當麻文化会館ホール稼働率を将来目標値として 50%、中央公民館・當麻文化会館・地区分館における、各種定期教室講座の参加者数の将来目標値を 4,800 人としています。

### (2) 第2期葛城市総合戦略(令和 2(2020)年3月策定)

平成 27(2015)年に策定した「葛城市総合戦略」の計画期間が令和 2(2020)年度に満了を迎えました。そこで、国が示す「まち・ひと・しごと創生基本計画 2019」を踏まえた前戦略の改定を行いました。本戦略では、総合戦略と同様に「国立社会保障・人口問題研究所」が推測した人口減少に歯止めをかけるため、今後 5 年間での目標達成に向けた対策と人口増となることを視野に入れた取組を講じました。「アクションプラン」では、「移住支援(子育てに係る各種支援・取組を通じた人口増加)」「集客支援(観光業を基幹とした産業の振興)」「定住支援(地域コミュニティの強化を通じた地域の紐帯の強化)」の三つ柱と 12 の施策をより重点化し、「住みよいまち」の実現に向けた取組を行っています。

### (3) 葛城市都市計画マスタープラン 2017(平成 29(2017)年7月策定)

當麻文化会館周辺は市街地ゾーンとして位置づけられています。また、當麻庁舎周辺のまとまりある範囲を北部地域として位置づけ、市民と行政の対話を深め、効率的に市民サービスを提供できる行政機能をシビック拠点として配置するとしています。地域のまちづくりの目標は「良好な田園環境とまとまりのある定住環境を備えた地域づくり」と設定しています。土地利用の基本方針として、立地適正化に位置づけられる「当麻寺・磐城エリア」は、葛城市が進める「すもう、葛城市」のリーディング地域として位置づけられており、若い世代を周辺から誘導し、高齢者と子育て世代が一緒ににぎわいをつくり、交流し、支え合う中で、生活に必要なサービスが受けやすい地域とすることを目指しています。

### (4) 葛城市立地適正化計画(平成 29(2017)年 11 月策定)

「コンパクトなまちづくり」を実現するための方策として、葛城市立地適正化計画を作成しています。本計画では子育て世代、シルバー世代(高齢者)をメインターゲットとしながら、集約型の「住み続けられる」まちづくりを目指しています。

當麻庁舎、當麻文化会館、當麻図書館が立地する場所は、当麻寺・磐城エリアとして居住誘導区域、都市機能誘導区域に設定した区域です。目指すべき地域の方向性として、「市民一人一人が地域で自立していきいきと暮らせる地域づくり」、「市民が担い手となって、葛城市らしさを守り、伝える地域づくり」、「親も子も笑顔で育つ地域づくり」が挙げられています。更に、立地適正化計画が当麻寺・磐城エリアに果たす役割として、當麻庁舎や集積する行政・

公共施設、空き家を有効に利用し、目指す地域づくりの方向性に対応する施設やサービスを適切に誘導、集約するとなっています。

#### (5) 葛城市公共施設マネジメント基本計画(平成 28(2016)年3月)

計画の対象施設は、公共施設等のうち一般建築物を対象とし、計画対象期間は平成 28(2016)年度～平成 67(2055)年度までの 40 年間としています。本計画では「サービス保存の原則」を前提とし、施設保有量が再編や統合によって変化してもそれまで行ってきた行政サービスは維持することとしています。方向性として、「総量の削減」、「長寿命化の推進」、「費用対効果の改善」、「市民等との協働」の 4 つの取組を進めるとしています。

今後の方向性として、当麻庁舎については利便性を維持したままでの耐震改修は困難であり、利用状況や新庄庁舎との役割分担等を踏まえて今後のあり方を検討するとなっています。また、文化会館、図書館については、広域的な視点で施設の配置(再編)を検討していくべきであり、機能の重複が見られることから、特長を生かしつつ更新時期等に合わせて方向性を検討するとなっています。更に、周辺の状況等も考慮し、他の施設からの機能移転等による複合化(多機能化)を検討するとなっています。

#### (6) 葛城市公共施設等総合管理計画(令和4(2022)年度改定予定)

初版の総合管理計画では平成 29(2017)年度から平成 38(2026)年度までの 10 年間を対象期間としていましたが、令和 3(2021)年度に改定作業に取り組み、改訂版は令和 4(2022)年度から令和 8(2026)年度までの 5 年間を対象期間とする予定です。

葛城市公共施設マネジメント基本計画と同様に公共施設の適切な維持保全に向けた方針として、「サービス保存の原則」を前提としています。当麻庁舎については、「令和 4 年度に除却を予定している」となっており、今後は「周辺施設を含めた当麻庁舎エリアのあり方について検討する」となる予定です。

当麻文化会館、当麻図書館については、「当麻庁舎の機能移転に伴ってその他周辺施設との複合化(多機能化)を推進する」となる予定です。

#### (7) 葛城市地域防災計画(平成 29(2017)年4月策定)

市民の生命、身体及び財産を地震や風水被害等の災害から保護するとともに、社会秩序の維持と公共の福祉の確保を図ることを目的として、自治体が住民協力のもとに実施する、災害対策を策定されています。計画の推進に当たり、「災害に強いまちづくり」「災害に強い人づくり」「災害に強い体制づくり」の三つを基本とすることで、総合的で計画的な災害対策の整備推進を図っています。その中では、災害を想定した避難や救助訓練の実施及び体制づくり等を行うとともに、危険予想箇所の周知や整備を行うことによる予防や、災害時でも重要な業務をなるべく中断せず、継続できる計画(葛城市業務継続計画)の運用等の取組が挙げられています。

#### (8) 第2期葛城市教育大綱(令和3(2021)年3月策定)

実施期間を令和 3(2021)年度から令和 7(2025)年度とし、基本目標「高い道徳心や規範意識を備えるとともに、人間愛・郷土愛に富み、進んで挑戦する市民の育成」が掲げられています。その中で「文化・芸術の振興」の項目として、魅力ある事業・イベントの実施、市民の文化芸術・学術への関心を育てる文化会館、図書館や歴史博物館等の文化施設における事業等の充実が挙げられています。更に、「家庭の教育力の向上」の項目として、「子育てふれあい広場」等、保護者の交流の場と機会の提供が挙げられています。

**(9) 葛城市子どもの読書活動推進計画(平成27(2015)年6月策定)**

本市に育つすべての子どもが読書に親しむための総合的なガイドラインとして策定されています。計画では、「図書館における子どもの読書活動の推進」の取組として、魅力ある図書の配備、レイアウトの構成、特色ある棚づくりとともに、年齢に応じた図書の整備と充実が挙げられています。また、中学生・高校生の利用者が減少していることから、「ティーンズコーナー」の充実等が挙げられています。

**(10) 葛城市業務継続計画(平成29(2017)年3月策定)**

葛城市で起きた過去の災害を背景とし、優先すべき業務の整理や庁舎機能の停止・低下を最低減に押さえ、効率的な業務を行うための資源の準備・対応指針が掲げられています。災害時におけるシナリオや体制づくり等を想定することで、大規模災害・緊急時における業務への影響を最小限にすることを目標とし、災害発生後の復旧レベルの向上や災害直後の混乱による機能不全を避ける等の効果を期待した取組となっています。

**(11) 葛城市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)(令和5(2023)年3月策定)**

近年 ZEH や ZEB といった省エネ化が進んでいることや、本市でのゼロカーボンシティ宣言の実現に向けて貢献できるよう、日常の事務及び事業活動等で排出される、温室効果ガスの排出量の把握と抑制を行い、市民・事業者に温暖化防止活動の普及拡大を目的とした計画を策定しています。取組として、①行政マネジメントによる削減、②電気使用量の削減、③公用車燃料使用量の削減④建築物の建物、維持管理での削減を重点取組とし、2027年度までに「温室効果ガス排出量を9.8%削減」「電気使用の1.8%削減」とすることを目標としています。点検・評価については、所管課や施設へのチェックシート配布や、公用車の使用量等のチェックを行い、削減状況を職員に報告することで、意識の向上を図る予定です。

<下記、同計画 第6章より抜粋>

**【第6章】**

本市の事務事業活動に関する温室効果ガスの排出状況の特徴として、活動項目別排出量において、『電気の使用に伴う排出量』が半分以上を占めており、『燃料使用に伴う排出』も年々増加傾向にあります。

また、近年施設や建築物の建築において「ZEB(Net Zero Energy Building)」や「ZEH(Net Zero Energy House)」の建物や家が増えています。ZEBとは、建築計画の工夫によって大幅な省エネルギーを実現したうえで、太陽光発電等でエネルギーを創出し、年間消費エネルギー量を限りなくゼロにする建物のことです。このように、建築物においても省エネルギー化の動きが高まっています。

本計画ではゼロカーボンを見据え、以下の4つを重点取り組みとします。

**ゼロカーボンを見据えた野心的取り組み****重点取り組み1:行政マネジメントによる削減****組織・職員の取り組み****重点取り組み2:建築物等の建設・維持管理での削減****重点取り組み3:電気使用量の削減****重点取り組み4:公用車燃料使用量の削減**

## 1. ゼロカーボンを見据えた野心的取り組み

### (1)重点取り組み1：行政マネジメントによる削減

取り組むべき事項
<b>非化石燃料由来電気への転換</b>
・再生可能エネルギー等を活用して発電している電力会社の導入に努める
<b>新技術の導入検討</b>
・非化石燃料由来水素自動車等の積極的導入に努める
・ペロブスカイト型太陽光発電 <sup>※1</sup> の導入等により限られた敷地で最大限の発電を行う
・メタネーション <sup>※2</sup> 等のインフラ設備の導入の検討を積極的に行う
<b>排出量削減マネジメントの推進</b>
・葛城市公共施設等総合管理計画に基づき公共施設の総量の縮減に取り組む
・空調や照明等を高効率機器へ積極的に転換する
・温室効果ガス吸収源対策として、森林環境譲与税の活用方策を検討する
・ゼロカーボンの実現に向けた再生可能エネルギーの導入戦略の策定



※1：ペロブスカイトという光を電気に変換する結晶構造を持つ素材で作られる太陽光発電で、従来の太陽光発電よりも軽量で柔軟性があり、設置場所の制限が緩くなる等のメリットがある。

※2：水素(H<sub>2</sub>)と二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)から天然ガスの主成分であるメタン(CH<sub>4</sub>)を合成する技術。

図 6-1 メタネーションの仕組み

出典)「ガスのカーボンニュートラル化を実現する『メタネーション』技術」/  
スペシャルコンテンツ(資源エネルギー庁 2021)

## 2. 組織・職員の取り組み

### (2)重点取り組み2：建築物等の建設・解体での削減

項目	取り組むべき事項
<b>建築物等の設計・施工について</b>	
①設計時	・建築物等の設計時には、新技術の導入等を検討する
	・採光・通風等の自然の力の活用に努める
	・断熱性能の高い建具の採用や、二重ガラス・複層ガラス・熱反射ガラス等の導入に努める
	・建築物の規模・用途に応じた太陽光発電・太陽熱・排熱等の未利用・再生可能エネルギーの導入に努める
	・施設の規模、用途に応じた空調・給湯機器、エレベーター、照明機器等での高効率機器の導入に努める
	・各種抑制システムの採用等による消費電力の低減に努める
	・機器のレイアウトの配慮や、個別冷暖房、個別照明が可能なシステムの導入に努める
	・新設施設内での緑化の推進に努める
②施工時	・建築物の規模・用途に応じた雨水利用設備の導入に努める
	・耐久性と再利用を考慮し、建築資材を選定する
	・建設工事において間伐材等の未利用資源の活用に努める
	・建築副産物のリサイクルの推進
<b>建築物の解体・廃棄等について</b>	・建設副産物発生量の抑制の要請
	・建設副産物のリサイクルや適正処理の確認の実施
	・建設廃材のリサイクルの要請
	・フロンや代替フロンを使用している空調機器等の廃棄等におけるガスの回収の促進

## (3)重点取り組み3：電気使用量の削減

項目	取り組むべき事項
<b>購入について</b>	
①OA機器の購入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際エネルギースターロゴ表示機器等のエネルギー消費効率の高い製品の導入</li> <li>・エコマーク、環境ラベル等の環境負荷の軽減に資する物品の調達</li> </ul>
②照明機器・家電製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最小限の機器購入の推進</li> <li>・適正規模の高効率機器の導入</li> <li>・エネルギー消費効率が高い製品の導入</li> <li>・LED照明等の高効率照明への更新</li> </ul>
<b>使用について</b>	
①照明機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始業開始前の必要箇所以外での消灯の実施</li> <li>・窓口業務を除いた、昼休みの消灯の実施</li> <li>・晴天時の窓際の照明における支障のない範囲での消灯の実施</li> <li>・共用部分における、来庁者の支障のない範囲での消灯の実施</li> <li>・会議室等の未使用部屋や施設の消灯の徹底</li> <li>・残業時間中の点灯時間の縮小のため、超過勤務縮減に努めるとともに、毎週水曜日の定時退庁を徹底</li> <li>・残業時における、支障のない範囲での部分消灯の実施</li> <li>・照明器具の清掃や電球の適正な時期での交換の実施</li> <li>・照明スイッチに「省エネ」等のラベルを表示すること等による、来庁者への節電の協力要請</li> </ul>
②事務機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出時等における、パソコン等の電源OFFの実施</li> <li>・パソコン・コピー機等の省電力モードの設定</li> <li>・電気ポット、冷蔵庫、テレビ等電化製品の台数の節減</li> <li>・長時間未使用の電気製品のコンセントを抜くことで待機電力を削減</li> </ul>
③空調機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷暖房における適正な温度管理の実施（冷房時28度、暖房時20度）</li> <li>・冷暖房中の窓、出入り口の開放禁止の徹底</li> <li>・会議室等の冷暖房機器における、使用後の運転停止の徹底</li> <li>・吹き出し口の封鎖の防止</li> <li>・カーテン、ブラインドを活用した冷暖房効率の向上</li> <li>・効果的な排熱を行うため、発熱の大きいOA機器類の配置を工夫</li> <li>・定期的なエアコンのフィルター清掃の実施</li> <li>・長期間未使用時の冷暖房の電源プラグを抜くことで待機電力を削減</li> <li>・クールビズ、ウォームビズの実施</li> </ul>
④その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最小限のエレベーター利用、階段の積極的な利用</li> </ul>

## (4)重点取り組み4：公用車燃料使用量の削減

項目	取り組むべき事項
<b>購入について</b>	
①公用車の購入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用実態等の精査による公用車の台数削減や小型化の実施</li> <li>・公用車の購入・更新時における、低公害車（電気自動車、ハイブリッド車等）や低燃費車の選定</li> </ul>
<b>使用について</b>	
①公用車の使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張時における公共交通機関の利用の促進</li> <li>・近距離の移動における自転車や単車、公共交通機関の利用の促進</li> <li>・エコドライブの徹底（急発進・急加速の禁止、経済速度での運転）</li> <li>・アイドリングストップの実行</li> <li>・移動時の乗り合わせの推進</li> <li>・タイヤの空気圧の調整等の定期的な点検や整備の励行</li> </ul>

## (5)その他の取り組み

項目	取り組むべき事項
<b>その他の燃料使用量の削減</b>	
①購入について	・ボイラー等燃焼設備の設置・更新におけるエネルギー効率が高い省エネルギー型の設備の選択
②使用について	・ガスコンロや湯沸かし器の沸かしすぎの防止、炎の調節等の効率的な使用 ・ガス瞬間湯沸かし器の種火の使用時以外の消火
<b>水道使用量の削減</b>	
①購入について	・節水型機器の導入 ・感知式自動洗浄装置、個別洗浄方式等の導入検討
②使用について	・水道を減圧調整し、水の使用量を抑制 ・水漏れの定期点検の実施 ・芝生や植木等の散水の効率化
<b>用紙使用量の削減</b>	
①購入について	・原則として古紙配合率100%、白色度70%以下のコピー用紙を購入 ・印刷物等における古紙率が高く、白色度の低い再生紙の使用の促進 ・古紙配合率100%シングル巻きのトイレトーパーの購入
②使用について	・両面印刷、ミスコピーの裏面使用の徹底 ・コピー機使用後は必ずリセットボタンを押し、ミスコピーを防止 ・通知や情報交換等での電子メールや庁内LANの活用によるペーパーレス化の推進 ・会議における紙・封筒使用の削減 ・会議資料の簡素化・共有化により、ページ数や部数の削減 ・印刷物の部数の削減、ホームページの活用 ・庁舎内の所属間連絡における使用済み封筒の使用 ・簡易な事項における余白処理等の簡易決裁の推進
③廃棄について	・紙ごみの分別回収の徹底、リサイクルの推進 ・使用済み封筒の再利用の推進
<b>建築物の使用・維持管理について</b>	
①維持管理	・各種制御システムの効率的、経済的運用 ・空調、給油等設備変更時での温室効果ガスの排出の少ない高効率機器の導入 ・既存施設での可能な範囲での緑化の推進と、植栽の適切な維持管理
<b>文具・事務用品等の使用量の削減</b>	
①購入について	・文具・事務用品等の購入量の抑制 ・エコマークやグリーンマーク等の環境ラベル製品の購入の推進 ・回収システムが確立している製品の購入の推進 ・詰め替え、注ぎ足し可能な製品の購入の推進
②使用について	・備品等の長期使用の推進 ・紙コップ等の使い捨て製品の使用の抑制



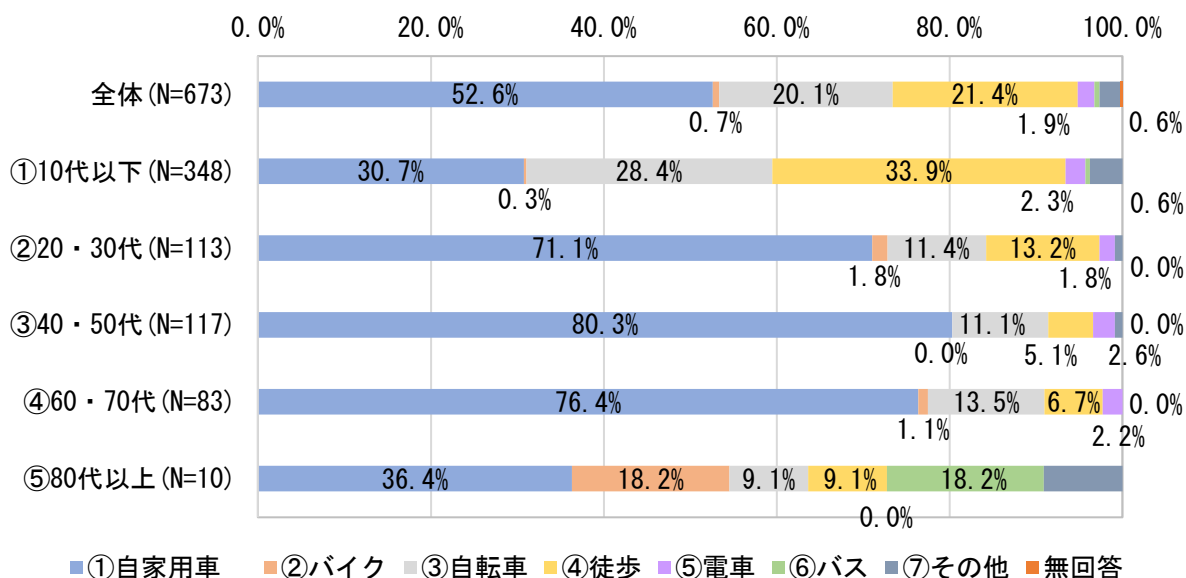
## 2 市民アンケート

計画に当たり、現施設の課題抽出と施設の複合化に向けた市民ニーズ等の意向調査を行うため、市民アンケートを実施しました。以下に調査結果及び分析を掲載します。

### (1) 調査結果(クロス集計)

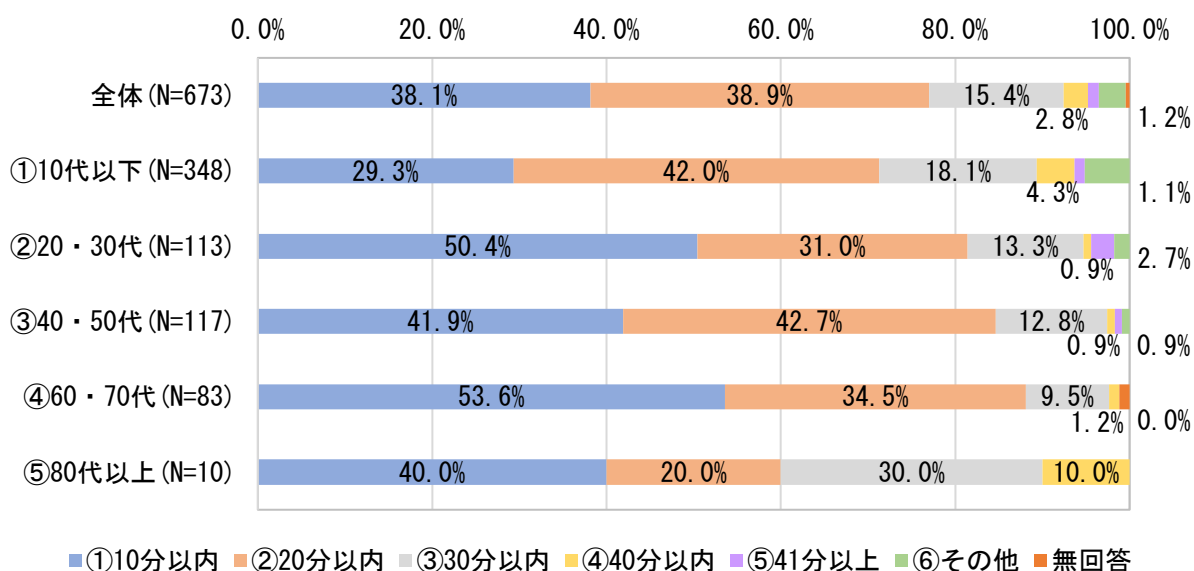
#### ①属性×各項目

##### ■年齢×移動手段



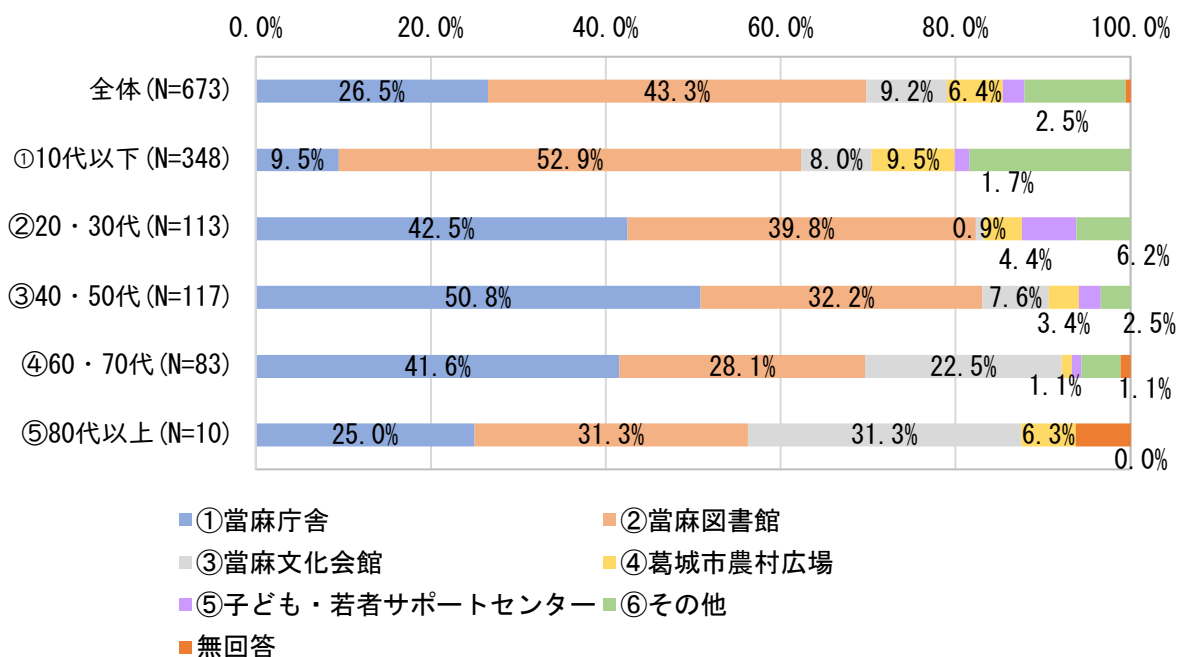
- 10代以下は自転車・徒歩の割合が多いことから、学校が終わった後に當麻エリアに来る可能性が高いとも読み取れる。
- 基本的に20代以上は、自動車での移動が70%程度であり、80代以上（回答数は少ないが）ではバスの割合が高くなっている。

##### ■年齢×移動時間



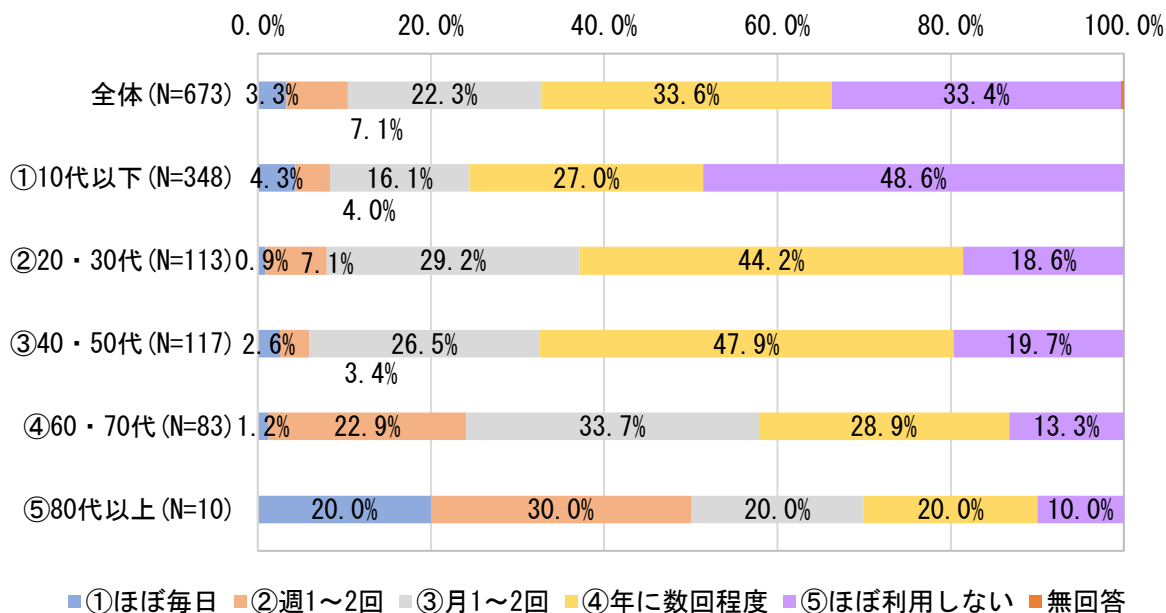
- 基本的には20分以内で當麻エリアまで来ることが可能である。

## ■年齢×最もよく行く施設



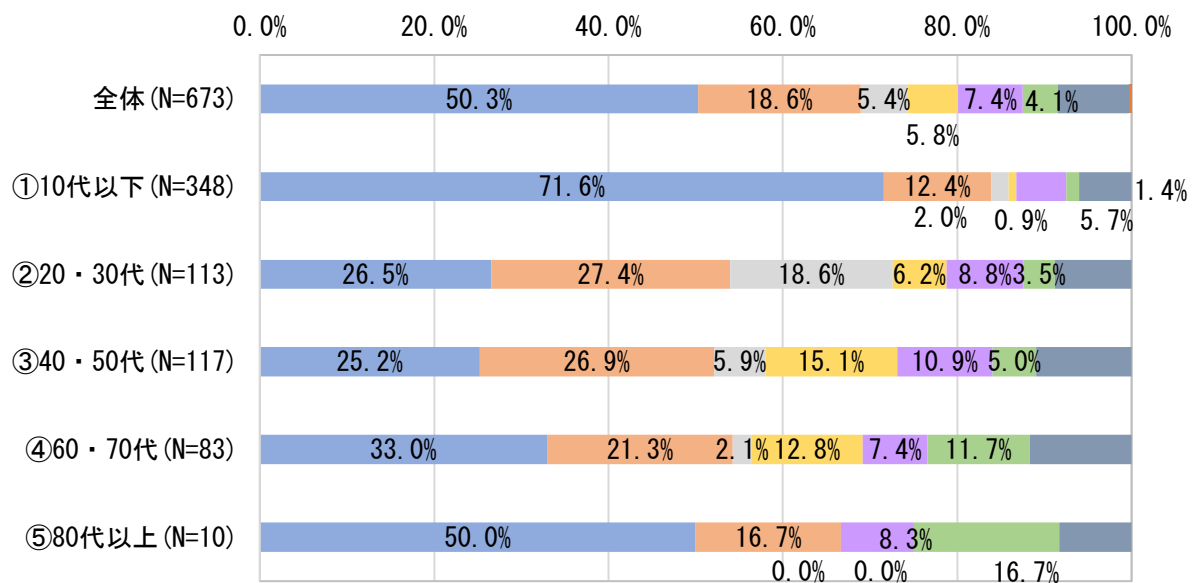
- どの年代も「当麻図書館」に行く人の割合が最低 30%程度あり、10代以下では 50%を超える。
- 20・30代、40・50代の子育て・現役世代ではおよそ 50%が「当麻庁舎」と回答。

## ■年齢×頻度



- 10代以下のおよそ 50%はほぼ利用していない。
- 子育て・現役世代も年に数回程度～ほとんど利用しない割合がおよそ 70%。
- 高齢者世代は、最低でも月に 1 回以上利用している割合が 60%前後。

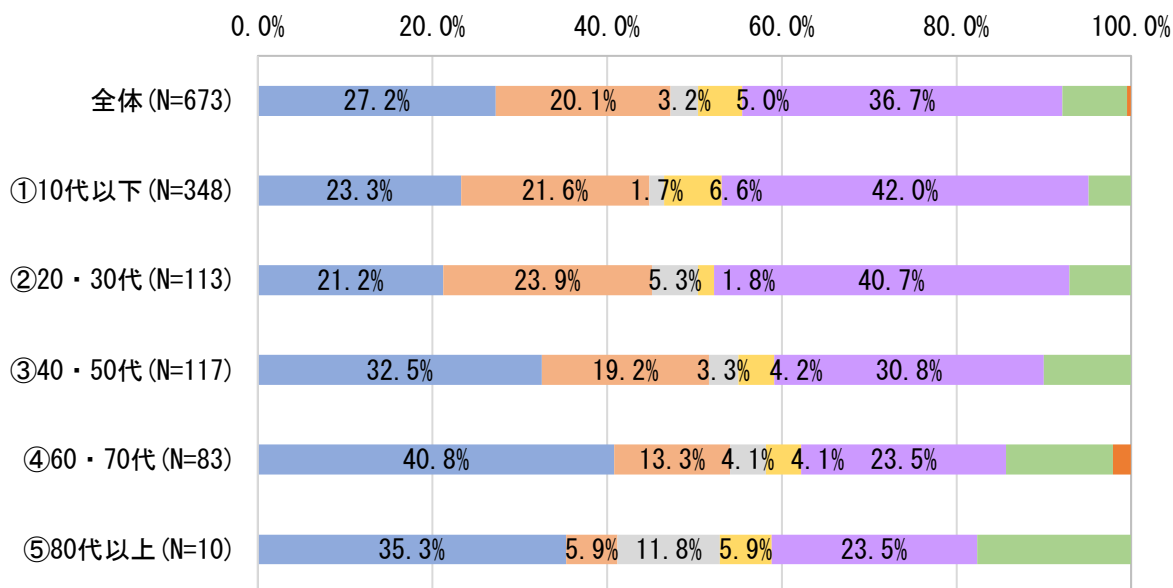
## ■年齢×気になる点



- ①特になし (現状で満足)
- ②リラックスできる場所がない
- ③子どもを連れて行きづらい
- ④バリアフリー対応が整っていない
- ⑤ITなどの最新設備が充実していない
- ⑥窓口・受付の対応 (手続きや相談のしやすさなど) が充分でない
- ⑦その他
- 無回答

- 10代以下、80歳以上の60～70%は現状で満足している傾向である。
- 子育て、現役世代は3施設を利用するに当たり、何らかの問題意識を持っている。
- 全年代に共通して、「特になし (現状で満足)」を除いて最も高い割合を示す回答は、「リラックスできる場所がない」であり、20%程度。
- 「その他」の回答には、個別に選択肢にない不満点や複数選択の回答が含まれている。

## ■年齢×整備方針

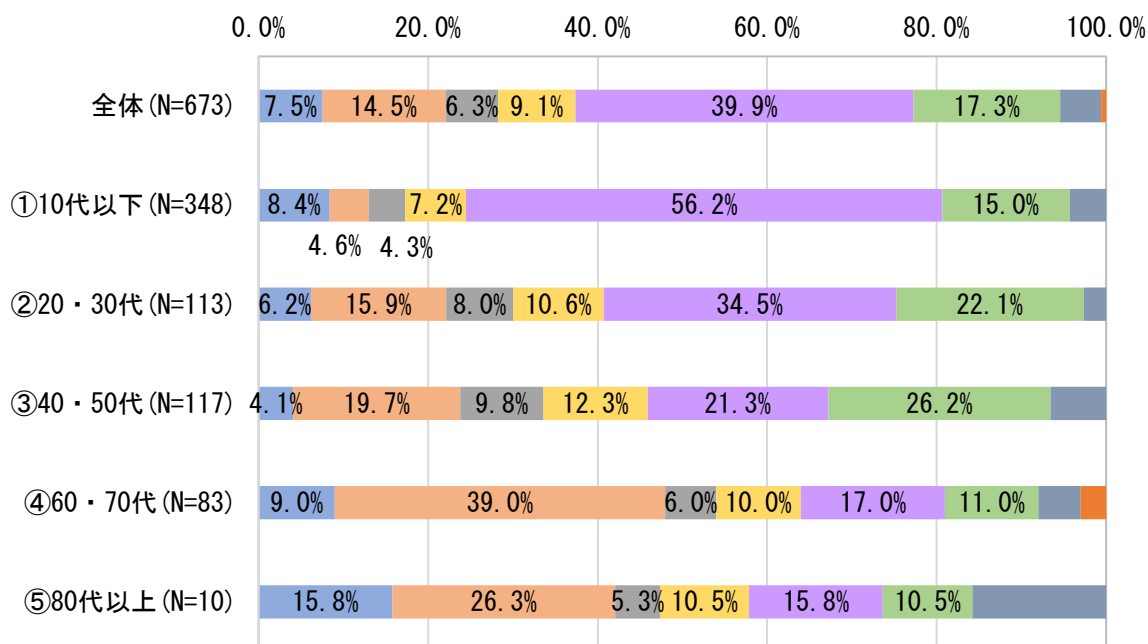


- ①様々な使い方で、幅広い年代が一緒に使える施設
- ②子どもや学生など、まちの未来を担う若者の声を反映した施設
- ③仕切りをなくす、またはガラス張りにすることで、活動の様子がうかがえ、施設全体につながりや相乗効果生まれる仕組み
- ④地域の新たなシンボルとなる大きく目立つ施設
- ⑤売店やカフェなどの民間施設と連携したにぎわいのある施設
- ⑥その他
- 無回答

●全対傾向では、「売店やカフェ等の民間施設と連携したにぎわいのある施設」と回答する割合が多いが、年代が上がるにつれて当該選択肢の回答割合は減少していく。中高年～高齢者世代の、その他の自由記述欄等を参照すると、にぎわいのある施設以上に、図書館や文化会館の公共的性格を重視する声が多く見られる。

●にぎわいのある施設を望む声に次いで、「様々な使い方で、幅広い年代が一緒に使える施設」と回答する割合が、年代が上がるにつれて20～40%に高くなる傾向が見られる。対して、「子どもや学生等、まちの未来を担う若者の声を反映した施設」の回答割合は、年代が上がるにつれて、減少する傾向である。以上から、全世代とも多世代で利用しながら、にぎわいの溢れる施設を望んでいる。

## ■年齢×庁舎機能



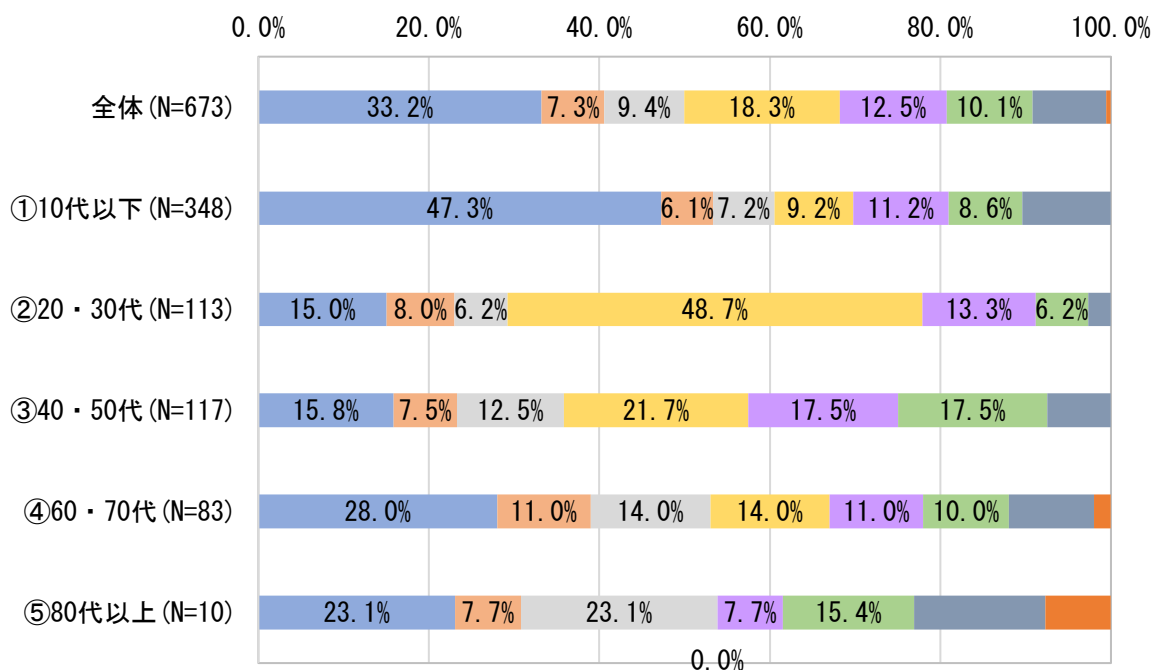
- ①受付窓口の増加
- ②一つの窓口で複数の要件に対応できる総合窓口
- ③気兼ねなく相談ができる個室・仕切りのある窓口
- ④予約・案内がわかりやすく迅速な対応が可能になるデジタル機器
- ⑤休憩や待ち時間が快適な空間
- ⑥自宅のPCやスマートフォンで申請ができ、窓口が効率化・縮小した施設
- ⑦その他
- 無回答

●年代ごとに傾向が大きく二つ読み取れる。

●庁舎を実際に利用する機会が少ない10代以下は、「休憩や待ち時間が快適な空間」を重視する割合が大きく、年代が上がるにつれて空間重視の割合は減少していく。若者世代は利用機会が少ない中で、イメージにより回答している可能性が高いため、安直に上記結果を受け取るのは不正確であると考えられる。

●実際に庁舎の利用が多くなる子育て・現役世代では、手続きの煩雑さ・手間・待ち時間を解消できるような機能重視の回答割合が多い。

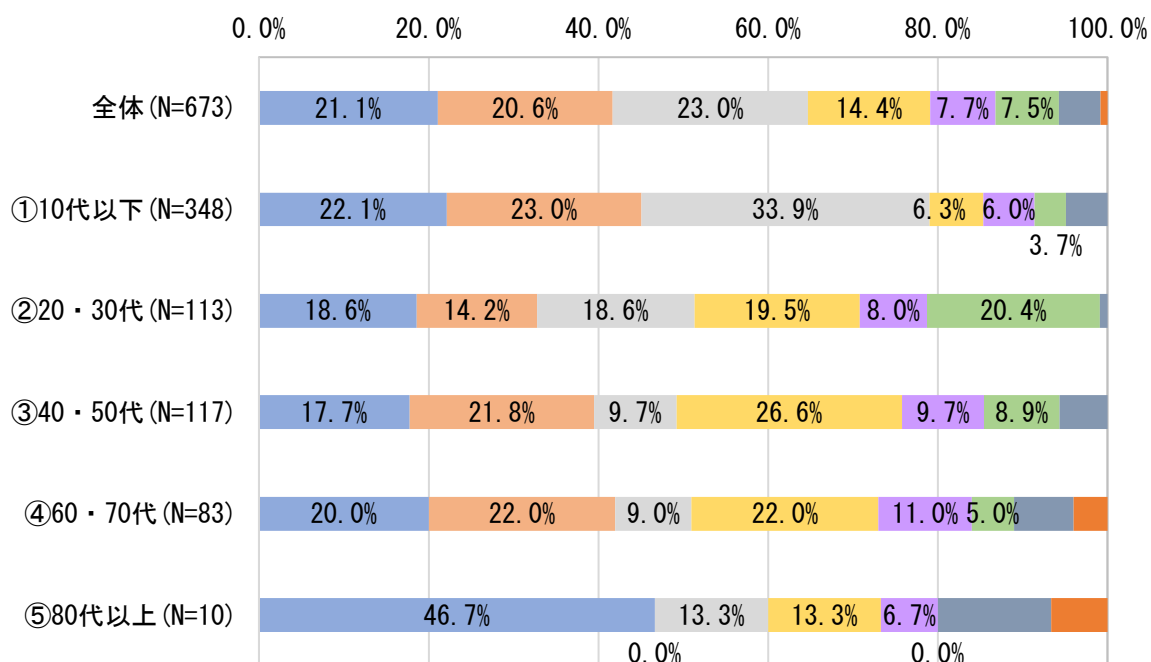
## ■年齢×図書館（本）要素



- ①小説や啓蒙本などの読み物としての本の充実
- ②新聞や雑誌の充実
- ③図鑑や専門書の充実
- ④絵本や子ども向け図書の充実
- ⑤デジタルの図書やコンテンツの充実
- ⑥図書館司書がおすすめする本や見たことのない本の充実
- ⑦その他
- 無回答

- 全体傾向としては「小説や啓蒙本等の読み物としての本の充実」が最も高く、10代以下ではおよそ50%である。当該選択肢は、現状の當麻図書館・新庄図書館の蔵書を中心であると思われるため、10代以下は「現状+α」の内容を望んでいると考えられる。
- 20・30代の子育て世代は、子どもを連れての利用が多いと予測されることから、「絵本や子ども向け図書の充実」を望む声が多く、中高年～高齢者世代は、「図鑑や専門書の充実」や「図書館司書がおすすめする本や見たことのない本の充実」の回答割合が高くなっていく。
- 以上から、全体としては年代が上がるにつれて、「自身の望むもの」→「(自分の)子どもが望むもの」→「全体として(公共として)望むべきもの」といった傾向が感じられる。

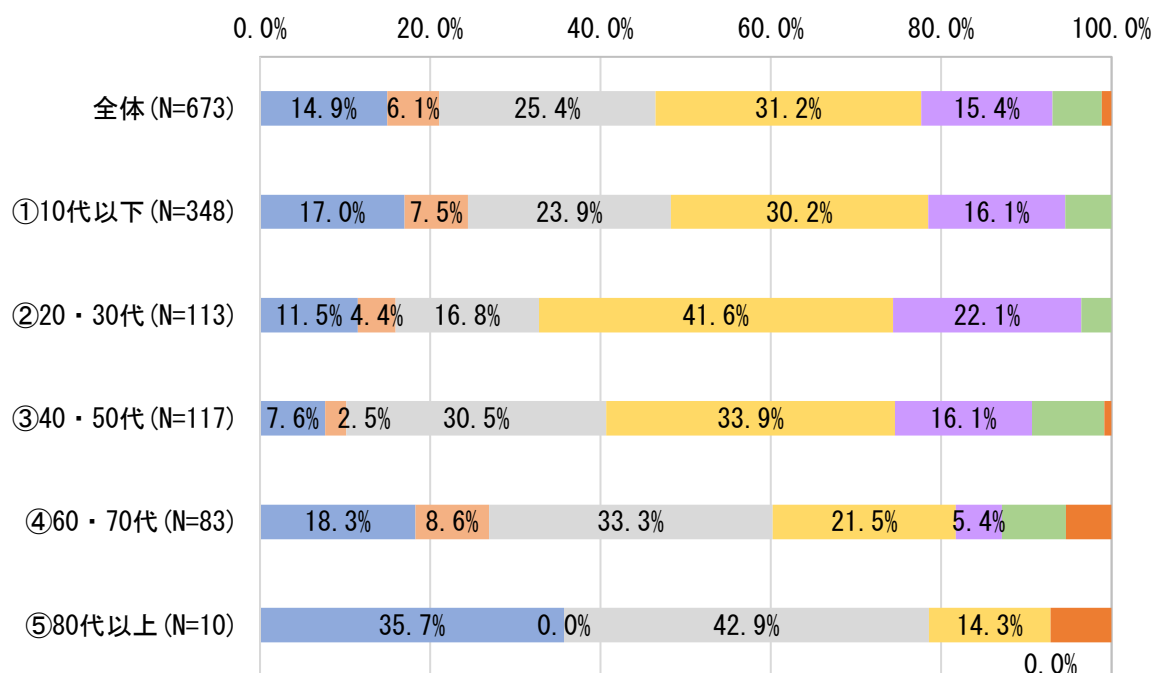
## ■年齢×図書館（空間）要素



- ①ジャンル別やシーン別など、直感的に分かりやすい配置
- ②静かで集中して読書や学習ができる環境
- ③会話や飲食、グループ学習などができる環境
- ④本との過ごし方がゆったりと選べる、いろいろな閲覧席の充実
- ⑤仕切りがなく開放感のある空間で、回遊しながら本を探せる環境
- ⑥子ども用スペースの充実
- ⑦その他
- 無回答

- 10代以下の傾向として、図書館に対して本を読む場所に加え、交流・自習室的要素を求める傾向が読み取れる。
- 20代以上の傾向としては、図書館ならではの、本との出会い等、空間体験的要素を重視することが読み取れる。

## ■年齢×ホール（設備）要素



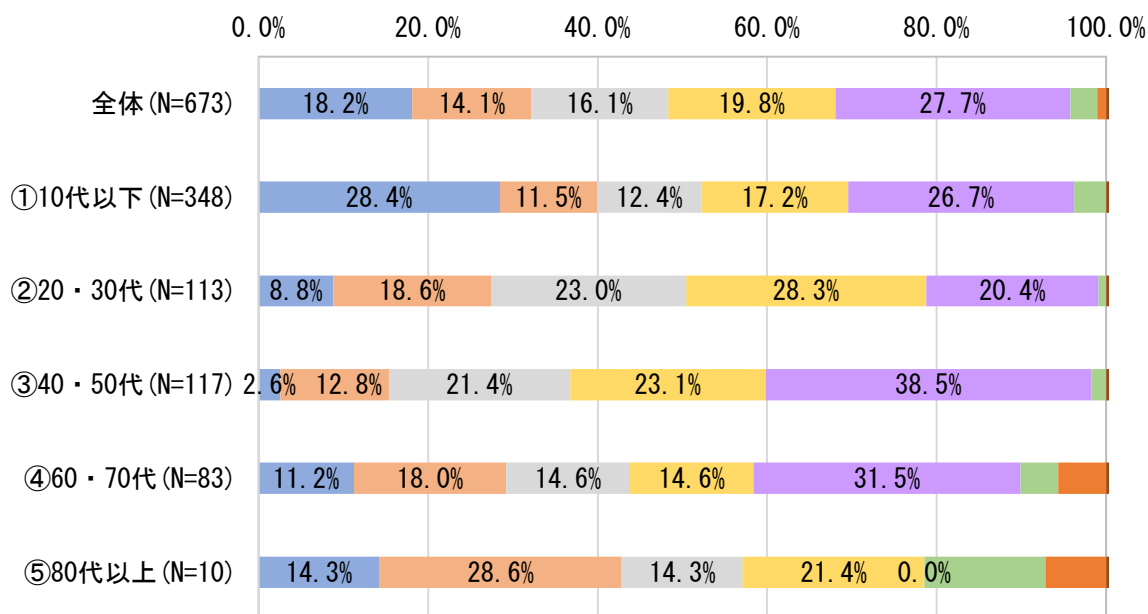
- ①プロの演者が求める音響・設備を持つ音楽ホール
- ②広い舞台のある演劇などに向けたホール
- ③クラブ活動などで気軽に日常使いができる簡易的なホール
- ④雨の日の遊び場など、多目的な利用ができる座席収納式のホール
- ⑤自由にピアノに触れられるなど、体験・体感を重視したホール
- ⑥その他
- 無回答

●基本的には、どの年代も興行に向けた設備を備えるホールよりも、自身が利用・体験できる設備の公共ホールを望んでいることが読み取れる。

●現在、當麻文化会館のホールを含めた貸し館機能の利用は高齢者世代が中心と予測できるが、この世代は特に「クラブ活動等で気軽に日常使いができる簡易的なホール」の回答割合が高いことから、一定規模のこれまでのコミュニティ活動を許容できる設備が必要であると考えられる。

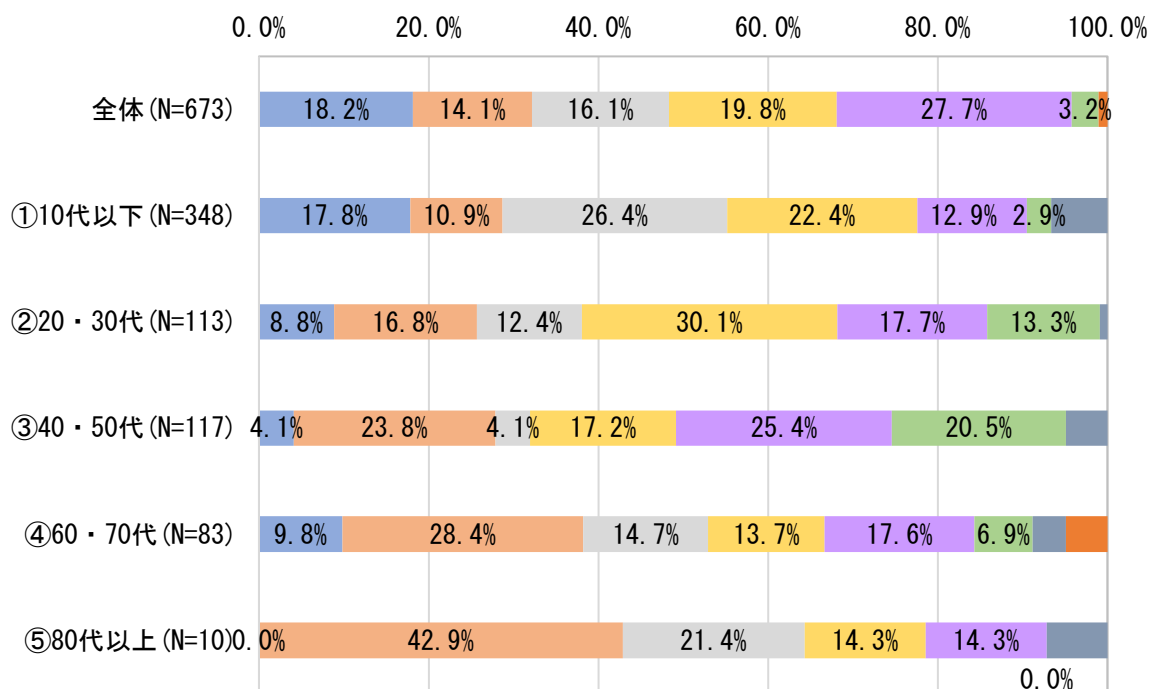


## ■年齢×ホール（空間）要素



- ①大人数（500席程度）が収容できる座席固定のホール
  - ②趣味や習い事などの成果発表を行う中規模（200席程度）のホール
  - ③ダンスやバンド演奏など、目的に応じて大きさが変えられるホール（50～150席程度）
  - ④館内の大階段やロビーを活用し、来館者が気軽にイベント参加できるなど、他の要素と一体となったホール
  - ⑤特に必要なし（マルベリーホールやあかねホール、中央公民館があるので）
  - ⑥その他
  - 無回答
- 10代以下が、「大人数（500席程度）が収容できる座席固定のホール」と回答する割合が、全世代の中で最も多く、大きなホールを望んでいる。しかし、「年齢×庁舎機能」の項と同様に、実際に利用する機会が少ないと思われる中での回答のため、回答結果解釈には注意が必要である。また、10代以下で当該選択肢を回答している理由として考えられることは、学校行事・部活動での発表・披露の際での大規模利用イメージからである。
  - 対して、年代が上がるにつれて、公共施設への問題意識（ハコモノ行政の反対）が高まっていくと予測されることから、「特に必要なし（マルベリーホールやあかねホール、中央公民館があるので）」の回答割合が高いことが説明できるであろう。
  - また、全年代とも整備するのであれば、中規模～小規模でこれまでにない使い方が可能なホール空間を求めていることが読み取れる。

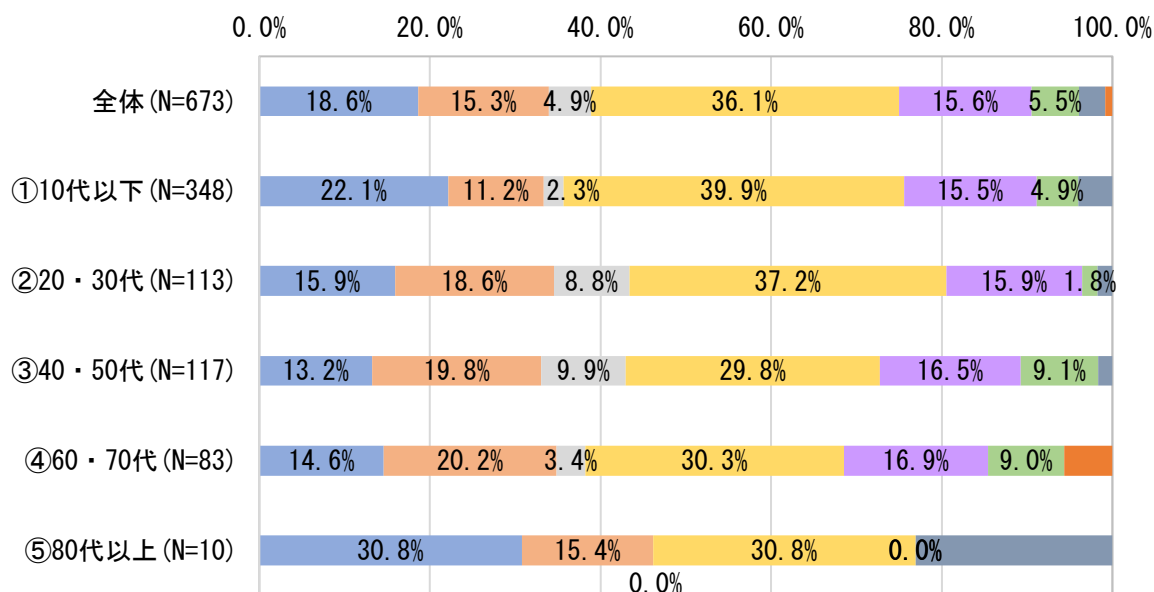
## ■年齢×居室機能



- ①調理器や陶芸窯、和室など、特定の設備が充実した部屋
- ②多目的に兼用できる可変性が高い部屋（会議室兼DIY作業室など）
- ③音や声などが気兼ねなく出せる防音室
- ④高齢者や子どもが安全に利用できる運動室（クッション床など）
- ⑤個人利用から団体の練習まで、目的に応じて大きさが変えられる部屋
- ⑥英会話教室や公文など、営利活動にも一時貸し付けができる部屋
- ⑦その他
- 無回答

- 「調理器や陶芸窯、和室等、特定の設備が充実した部屋」は現在でいう、當麻文化会館等の貸し館機能であると思われる。現在、これらの室利用の中心であると考えられる中高年～高齢者世代の当該回答割合が低く、10代以下の回答割合が高くなっている。これもまた10代以下では、利用イメージで回答している可能性が高いので、回答結果解釈には注意が必要である。
- 基本的に全年代において、可変性の高い居室機能を望んでいる傾向が読み取れる。

## ■年齢×共有スペース

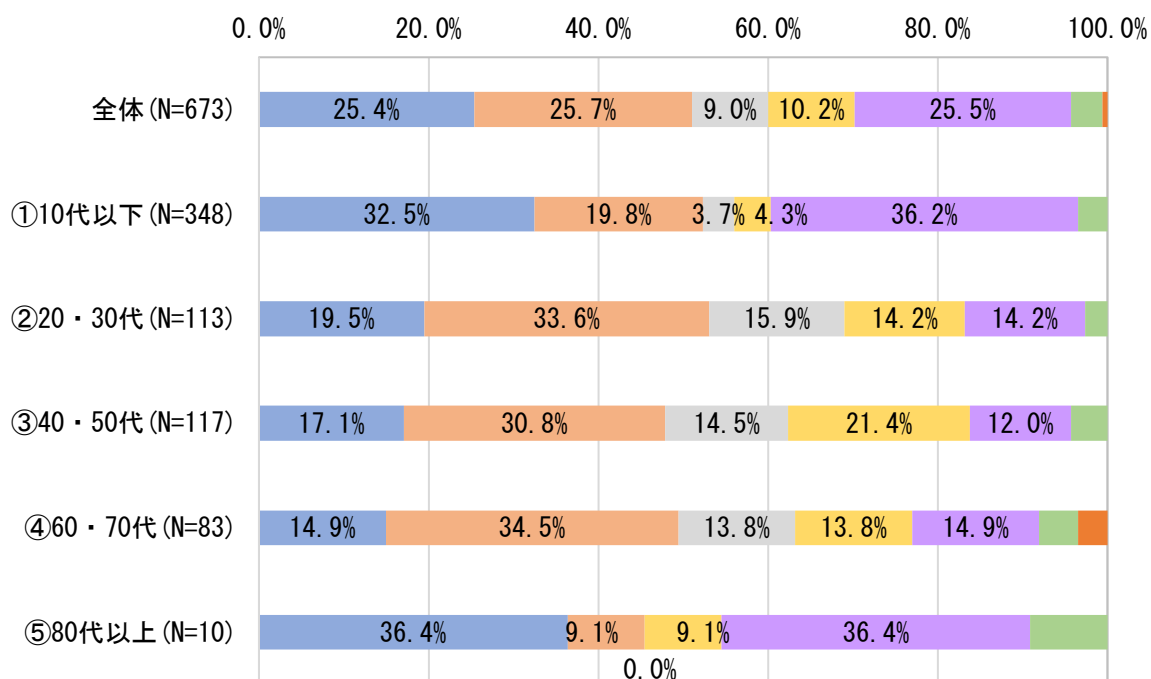


- ①ゆっくり休憩ができる静かなスペース
- ②気軽に会話や団らんができるスペース
- ③子どもを寝かせる・預けられる施設
- ④売店やカフェなどが併設している飲食スペース
- ⑤自由に使える広い屋外広場
- ⑥特に必要なし
- ⑦その他
- 無回答

● 求める共有スペースに関しては、どの年代もほとんど同じ回答割合である。「売店やカフェ等が併設している飲食スペース」が30～40%程度である。

● 「年齢×整備方針」では、年代が上がるにつれて、「売店やカフェ等の民間施設と連携したにぎわいのある施設」の回答割合が減少していくが、当該設問では上記で述べたとおりである。このことから、特に高齢者世代は、共有スペースの一部として民間施設（カフェ等）が入ることは望ましいが、施設全体としては公共的要素を軸とするすみ分けを重視していると考えられる。

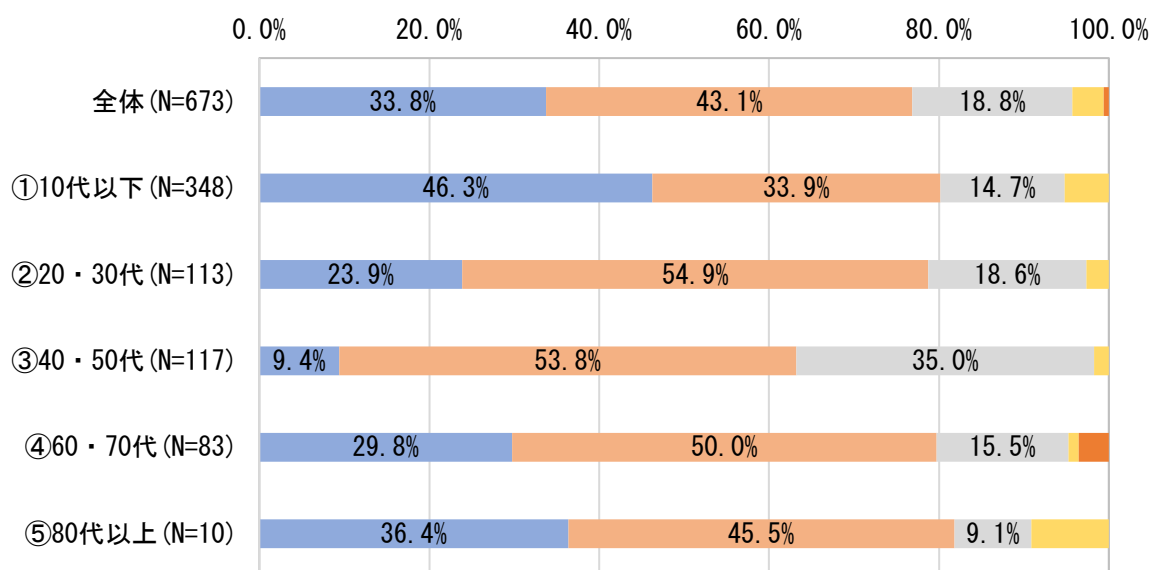
## ■年齢×料金体系



- ①設備を最低限にすることで、なるべく安く利用したい
- ②設備やサービスが充実していれば、ある程度負担してもよい
- ③企業(営利)活動を一部認めることで、利用料金に還元してほしい
- ④企業(営利)活動を一部認めることで、設備に還元してほしい
- ⑤特になし(現状と同じで問題ない)
- ⑥その他
- 無回答

- 「設備やサービスが充実していれば、ある程度負担してもよい」の回答割合が20～70代で最も高くなっている。有料の方が高いサービスの質を担保できるという考えを持つ市民が多いとも読み取れる。「企業(営利)活動を認めることで設備に還元してほしい」の回答も「特になし(現状と同じで問題ない)」と同等若しくはそれ以上の回答割合になっていることから、サービス・質の向上を望んでいる。
- ②の選択肢の読み取り方注意点として、設備・サービスの充実が前提となっていることに注意。

## ■年齢×運用方法



- ①現在の運用方法（市職員による対応）を継続すること
- ②民間企業への一部委託（指定管理など）により、開館時間の延長やイベントの充実など、市職員にできない運用面を活性化させること
- ③すべて民間企業に委託し、民間企業の最新のノウハウを取り入れること
- ④その他
- ⑤無回答

- 運用方法について、具体的なイメージがしづらい 10 代以下の回答結果の解釈には注意が必要である。
- 20 代以上は「一部民間委託」の割合が 50%前後で、回答割合の中心であるが、60 代以上では「現在の運用方法（市職員による対応）を継続すること」の割合も増加し、加えて自由記述においては、指定管理等の効果を疑問視する声も一定数存在し、直営による強い公共性を求める傾向も読み取れる。
- 社会的な流れから、民間委託の際への透明性の観点から「すべて民間委託」ではなく「一部民間委託」の割合が多くなっているとも考えられ、自由記述においても複数このような意見が見受けられる。

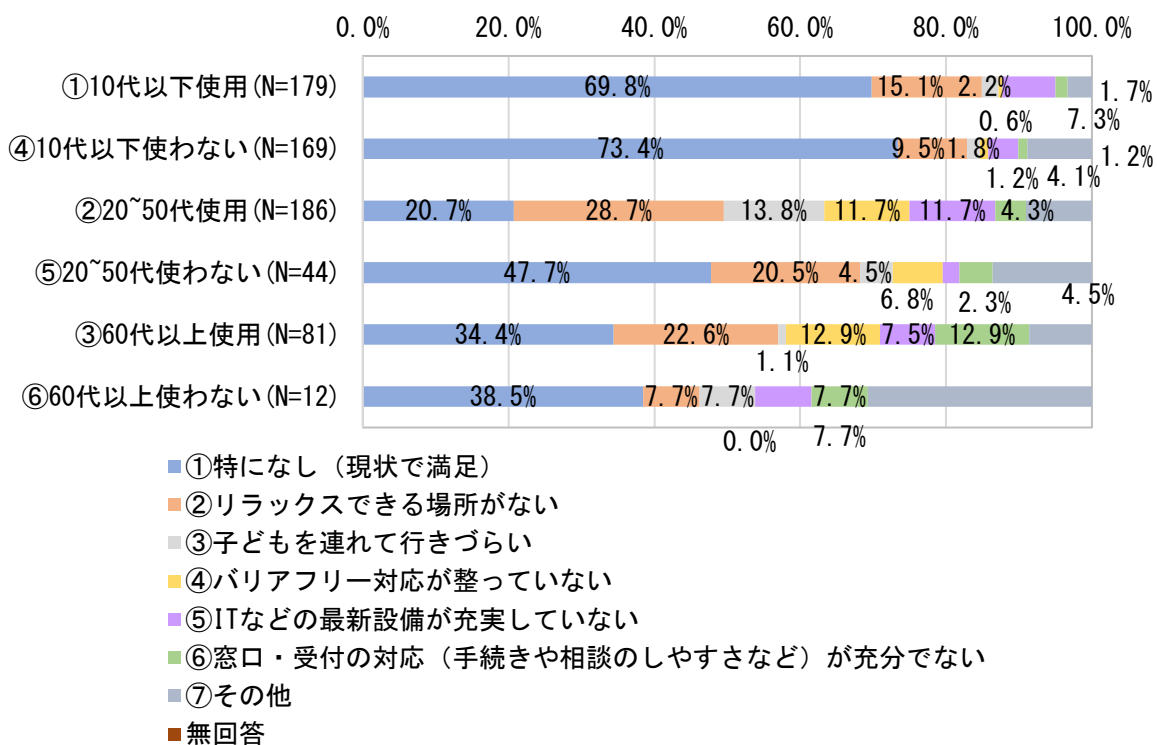
## (2) 要点整理のためのグループ別傾向分析

今後整備予定の當麻複合施設及び當麻庁舎跡地には、現在当該公共施設を使っている・使っていない、また年代に関わらず、あらゆる市民が真に利用したくなるような整備が求められている。そこで整備時に考慮すべき要点を整理するために、2章の回答者属性にエリア利用頻度を掛け合わせ、下記のとおりグループ分けを行い、これと各アンケート項目のクロス集計から更なる傾向を探る。

表 年代別當麻エリア利用頻度によるグループ分け

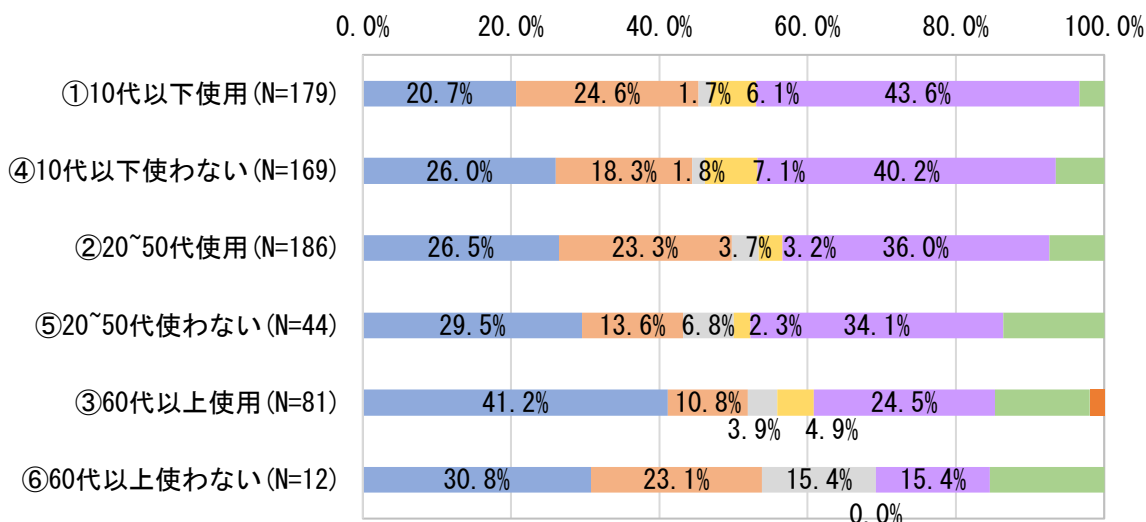
		年代		
		10代以下	20～50代	60代以上
利用頻度	現在も當麻エリアを使っている (最低でも1年に一度以上利用する)	①	②	③
	現在ほとんど當麻エリアを使わない (1年間に一度も利用しないレベル)	④	⑤	⑥

### ■グループ×気になる点



- いずれの年代でも使っていないグループで最も割合が高い回答は「現状で満足」である。つまり、3施設及び周辺を利用しない人は、不満があるから使わないのではなく、単に利用する目的がないためと読み取れる。
- 使っている、特に20～50代では8割近くが利用に際して気になる項目がある。

## ■グループ×整備方針



- ①様々な使い方で、幅広い年代が一緒に使える施設
- ②子どもや学生など、まちの未来を担う若者の声を反映した施設
- ③仕切りをなくす、またはガラス張りにすることで、活動の様子がうかがえ、施設全体につながりや相乗効果が生まれる仕組み
- ④地域の新たなシンボルとなる大きく目立つ施設
- ⑤売店やカフェなどの民間施設と連携したにぎわいのある施設
- ⑥その他
- 無回答

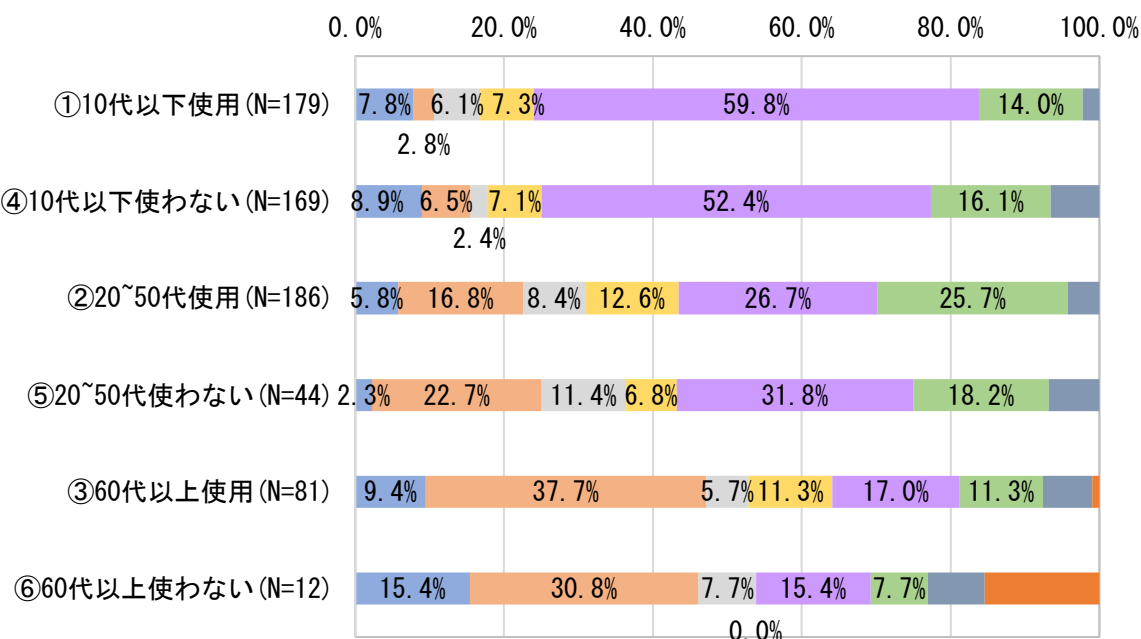
### ○「使っている/使っていない」の比較

- 10代以下ではほとんど回答傾向は同様である。
- 20～50代もほとんど回答傾向は同様であるが、使っているグループの方が「子どもや学生等、まちの未来を担う若者の声を反映した施設」と回答する割合が、使っていないグループよりも約10%高い。
- 60代以上では、使っているグループでは「様々な使い方で、幅広い年代が一緒に使える施設」の割合が40%を超える。対して使っていないグループは「子どもや学生等、まちの未来を担う若者の声を反映した施設」の割合が10%強高くなっている。

### ○年代・項目別の比較

- 10～50代では使っている/使っていない、両グループとも「売店やカフェ等の民間施設と連携したにぎわいのある施設」の割合が最も高く、既存サービス以外の付加価値をエリアに求めていることが読み取れる。

## ■ グループ×庁舎機能



- ①受付窓口の増加
- ②一つの窓口で複数の要件に対応できる総合窓口
- ③気兼ねなく相談ができる個室・仕切りのある窓口
- ④予約・案内がわかりやすく迅速な対応が可能になるデジタル機器
- ⑤休憩や待ち時間が快適な空間
- ⑥自宅のPCやスマートフォンで申請ができ、窓口が効率化・縮小した施設
- ⑦その他
- 無回答

## ○ 「使っている/使っていない」の比較

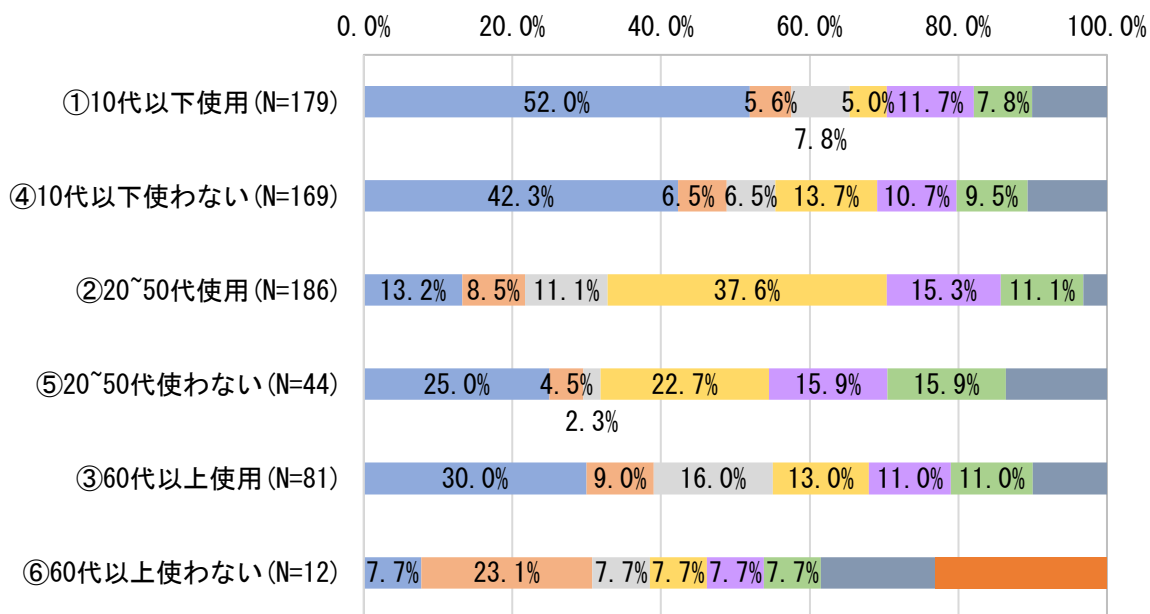
- 10代以下ではほとんど回答傾向は同様である。
- 20~50代もほとんど回答傾向は同様であるが、使っているグループの方は「自宅のPCやスマートフォンで申請ができ、窓口が効率化・縮小した施設」の割合が、やや高く、対して使っていないグループは「一つの窓口で複数の要件に対応できる総合窓口」の割合が若干高い。
- 60代以上では、使っているグループでは「予約・案内がわかりやすく迅速な対応が可能になるデジタル機器」の割合が高い。

## ○ 年代・項目別の比較

- 10代以下は実際に利用が少ないことが予測されることから、空間的要素を重視。
- 20~50代ではデジタル化で公共サービスが効率化されることを望む割合が高くなる。
- 60代以上では、実際の施設でのサービス向上を望む割合が高くなる。



## ■グループ×図書館（本）



- ①小説や啓蒙本などの読み物としての本の充実
- ②新聞や雑誌の充実
- ③図鑑や専門書の充実
- ④絵本や子ども向け図書の充実
- ⑤デジタルの図書やコンテンツの充実
- ⑥図書館司書がおすすめする本や見たことのない本の充実
- ⑦その他
- 無回答

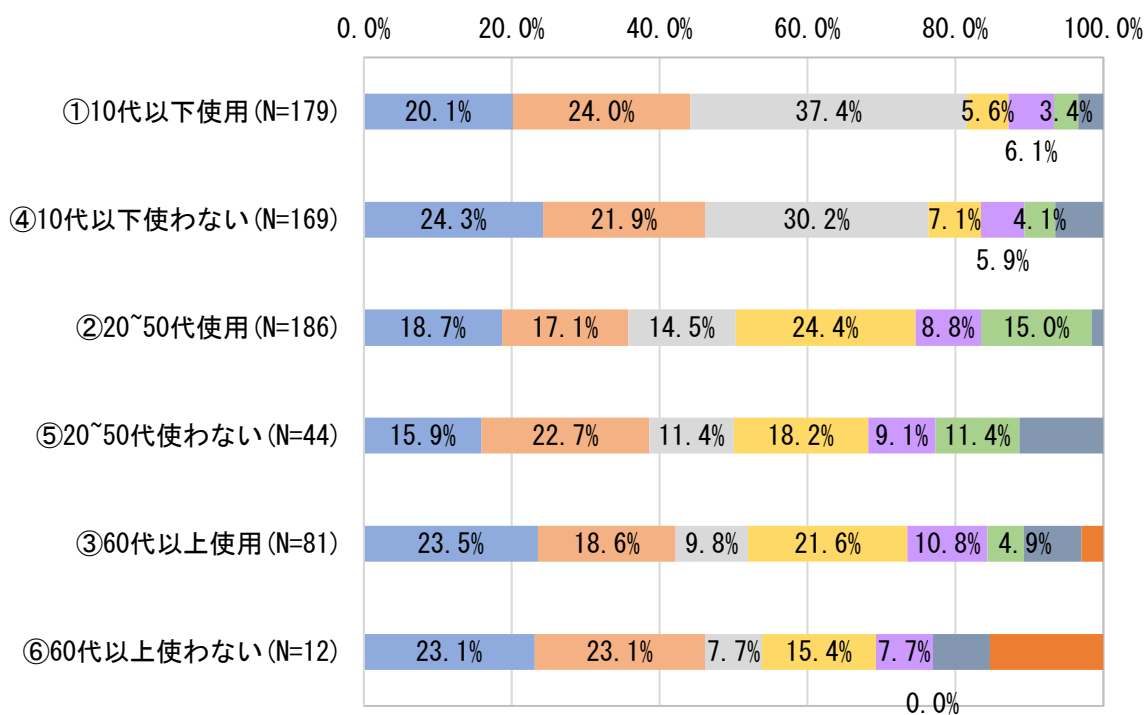
## ○「使っている/使っていない」の比較

- 10代以下ではほとんど回答傾向は同様であるが、使っているグループでは「小説や啓蒙本等の読み物としての本の充実」の割合が10%ほど高くなる。
- 20～50代の使っているグループは「絵本や子ども向け図書の充実」の割合が高くなる。
- 60代以上では、使っていないグループはほとんどの項目で同じような回答割合であるが、その中では「新聞や雑誌の充実」の割合が高くなる。

## ○年代・項目別の比較

- 10代以下では「小説や啓蒙本等の読み物としての本の充実」、20～50代では「絵本や子ども向け図書の充実」、60代以上では「小説や啓蒙本等の読み物としての本の充実」+「図鑑や専門書の充実」の割合が高くなる。
- それぞれ 10代以下：自分で読みたいもの、20～50代：(自分の)子どもに読ませたいもの、60代以上：自分で読みたいもの+図書館としてあるべきもの、を望んでいる。

## ■グループ×図書館（空間）



- ①ジャンル別やシーン別など、直感的に分かりやすい配置
- ②静かで集中して読書や学習ができる環境
- ③会話や飲食、グループ学習などができる環境
- ④本との過ごし方がゆったりと選べる、いろいろな閲覧席の充実
- ⑤仕切りがなく開放感のある空間で、回遊しながら本を探せる環境
- ⑥子ども用スペースの充実
- ⑦その他
- 無回答

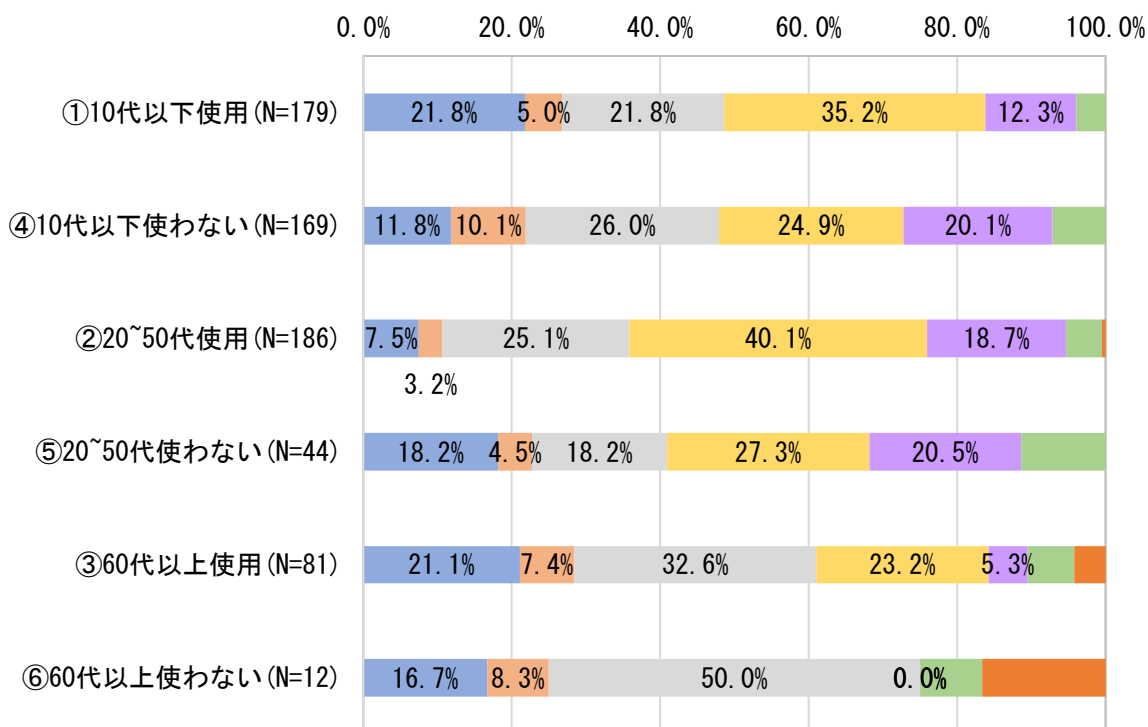
## ○「使っている/使っていない」の比較

- いずれの年代も使っている/使っていないの両グループとも回答割合はほとんど同じ傾向である。

## ○年代・項目別の比較

- 10代以下では「会話や飲食、グループ学習ができる環境」の回答割合が高い。
- 20~50代では「子ども用スペースの充実」の回答割合が他の年代よりも高い。

## ■グループ×ホール（設備）



- ①プロの演者が求める音響・設備を持つ音楽ホール
- ②広い舞台のある演劇などに向けたホール
- ③クラブ活動などで気軽に日常使いができる簡易的なホール
- ④雨の日の遊び場など、多目的な利用ができる座席収納式のホール
- ⑤自由にピアノに触れられるなど、体験・体感を重視したホール
- ⑥その他
- 無回答

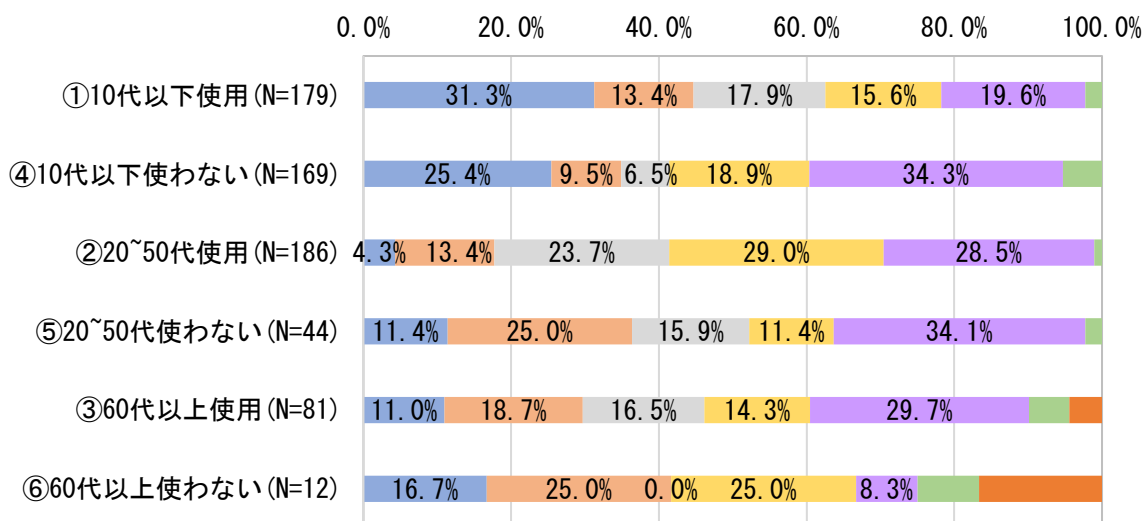
## ○「使っている/使っていない」の比較

- 10代以下の使っているグループは「プロの演者が求める音響・設備を持つ音楽ホール」、「雨の日の遊び場等、多目的な利用ができる座席収納式のホール」の割合が使っていないグループよりも高い。
- 20～50代の使っているグループは自身の活動のための簡易的なホールを望む割合が高くなる。対して使っていないグループは「プロの演者が求める音響・設備を持つ音楽ホール」の割合が10%強高い。
- 60代以上の使っているグループでは「雨の日の遊び場等、多目的な利用ができる座席収納式のホール」が高い。

## ○年代・項目別の比較

- 10～50代は基本的には簡易的なホール及び自身が体験・体感できるホールを望む。
- 60代以上では既存の活動の中心と思われるクラブ活動等で使用できるホールを望む。

## ■グループ×ホール（空間）



- ①大人数（500席程度）が収容できる座席固定のホール
- ②趣味や習い事などの成果発表を行う中規模（200席程度）のホール
- ③ダンスやバンド演奏など、目的に応じて大きさが変えられるホール（50～150席程度）
- ④館内の大階段やロビーを活用し、来館者が気軽にイベント参加できるなど、他の要素と一体となったホール
- ⑤特に必要なし（マルベリーホールやあかねホール、中央公民館があるので）
- ⑥その他
- 無回答

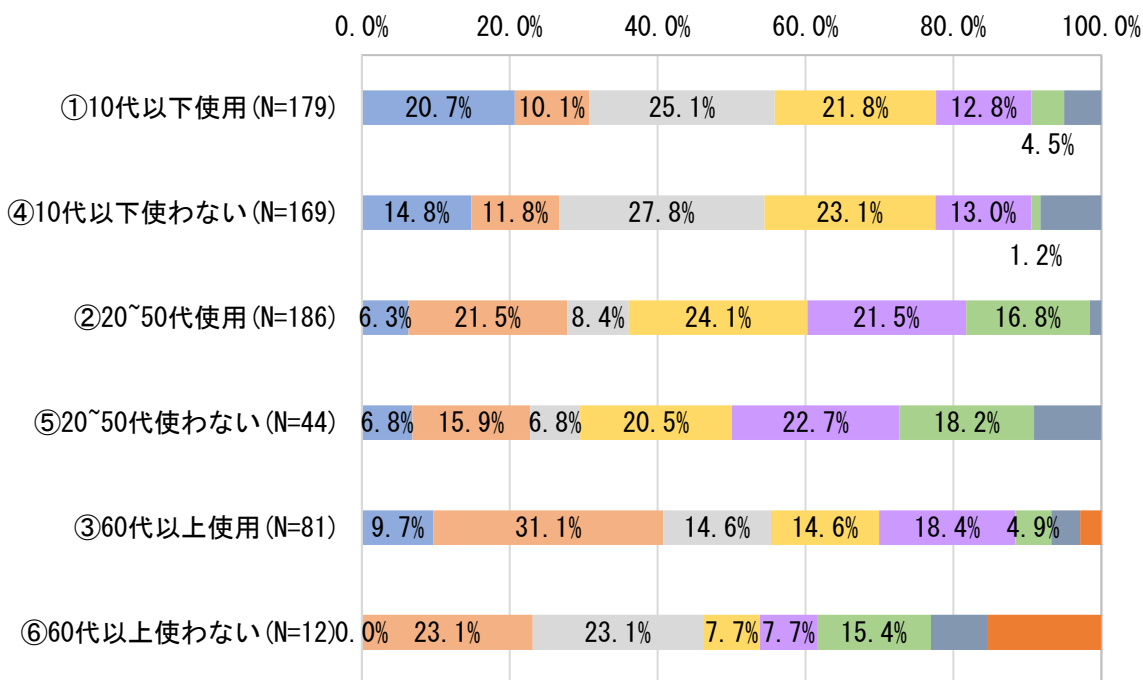
## ○「使っている/使っていない」の比較

- 10代以下の使っていないグループは「特に必要なし」の割合が高くなる。対して、使っているグループは「大人数（500席程度）が収容できる座席固定のホール」の回答割合が高い。
- 20～50代の使っているグループは「館内の大階段やロビーを活用し、来館者が気軽にイベント参加できる等、他の要素と一体になったホール」の割合が高い。
- 60代以上の使っているグループでは「特に必要なし」の割合が高いが、使っていないグループでは中規模程度のホールを望む割合が高い。

## ○年代・項目別の比較

- 10代以下が大規模ホールを望む割合が最も高い。
- それぞれの年代で「特に必要なし」が高い割合となっているが、整備するのであれば中規模、若しくは他の要素と一体的に使えるホールを望む傾向が読み取れる。

## ■グループ×居室機能



- ①調理器や陶芸窯、和室など、特定の設備が充実した部屋
- ②多目的に兼用できる可変性が高い部屋 (会議室兼DIY作業室など)
- ③音や声などが気兼ねなく出せる防音室
- ④高齢者や子どもが安全に利用できる運動室 (クッション床など)
- ⑤個人利用から団体の練習まで、目的に応じて大きさが変えられる部屋
- ⑥英会話教室や公文など、営利活動にも一時貸し付けができる部屋
- ⑦その他
- 無回答

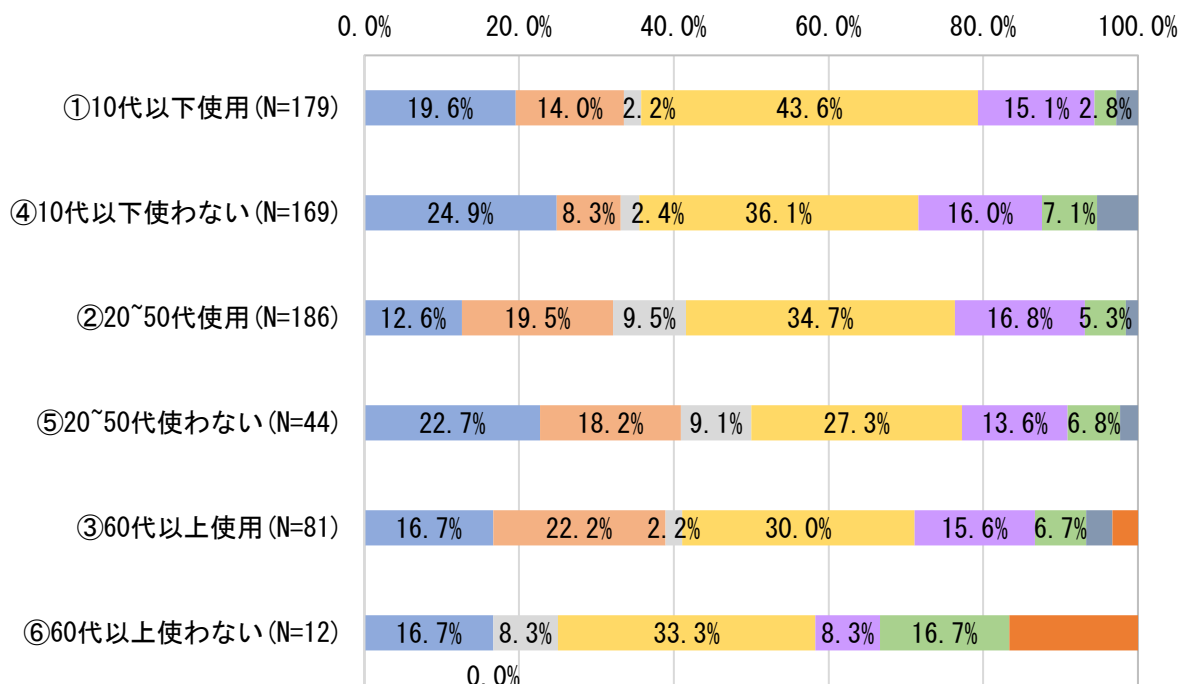
## ○「使っている/使っていない」の比較

- 10~50代のいずれも使っている/使っていない両グループとも同様な傾向である。
- 60代以上の使っているグループは「個人利用から団体の練習まで、目的に応じて大きさが変えられる部屋」の割合が高くなっている。
- 60代以上の使っているグループでは「雨の日の遊び場等、多目的な利用ができる座席収納式のホール」が高い。

## ○年代・項目別の比較

- 10代以下では「音や声などが気兼ねなく出せる防音室」の割合が高い。
- 20代以上では活動の用途・規模に応じて対応できる可変性が高い部屋を望む傾向がある。

## ■グループ×共有スペース



- ① ゆっくり休憩ができる静かなスペース
- ② 気軽に会話や団らんができるスペース
- ③ 子どもを寝かせる・預けられる施設
- ④ 売店やカフェなどが併設している飲食スペース
- ⑤ 自由に使える広い屋外広場
- ⑥ 特に必要なし
- ⑦ その他
- 無回答

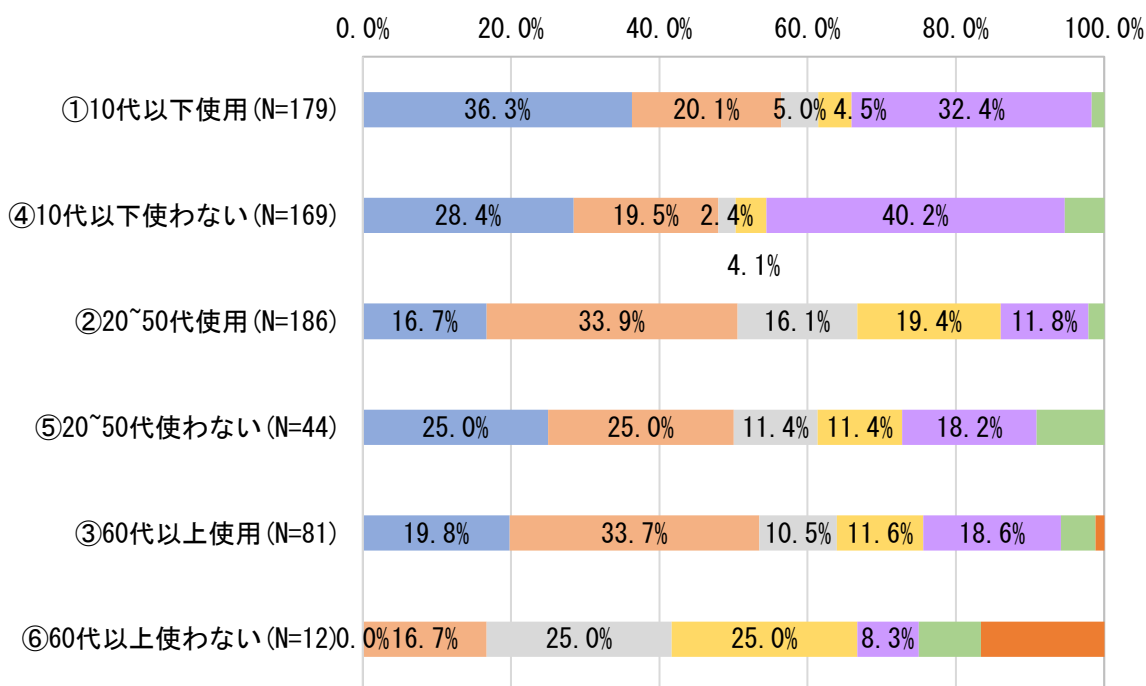
## ○「使っている/使っていない」の比較

- 10~50代は使っている/使っていない両グループともほとんど同じような傾向である。
- 60代以上の使っていないグループでは「気軽に会話や団らんができるスペース」の割合が非常に低い。

## ○年代・項目別の比較

- 年代別で大きく特徴のあるような傾向はなく、どの項目も同じような割合である。

## ■グループ×利用料金



- ①設備を最低限にすることで、なるべく安く利用したい
- ②設備やサービスが充実していれば、ある程度負担してもよい
- ③企業(営利)活動を一部認めることで、利用料金に還元してほしい
- ④企業(営利)活動を一部認めることで、設備に還元してほしい
- ⑤特になし(現状と同じで問題ない)
- ⑥その他
- 無回答

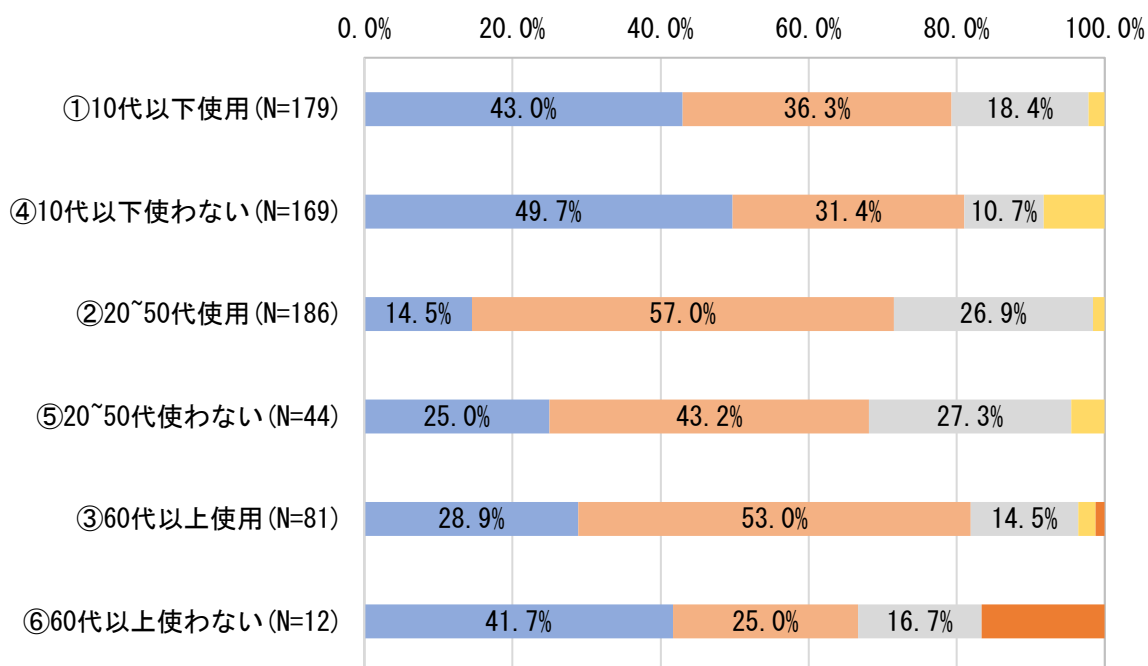
## ○「使っている/使っていない」の比較

- 10~50代の使っている/使っていない両グループともほとんど同じような傾向であるが、20~50代の使っていないグループでは、「設備を最低限にすることで、なるべく安く利用したい」若しくは「特になし(現状と同じで問題ない)」の割合が高い。

## ○年代・項目別の比較

- 10代以下では「設備を最低限にすることで、なるべく安く利用したい」、「特になし(現状と同じで問題ない)」の割合が高い。実際の利用機会が少ない世代と思われる、現状の利用料金状況も把握していない可能性があるため、注意が必要である。
- 基本的な傾向としては、設備やサービスが充実していれば、公共でも民間でもある程度の費用負担は許容できると読み取れる。

## ■ グループ×運用方法



- ①現在の運用方法（市職員による対応）を継続すること
- ②民間企業への一部委託（指定管理など）により、開館時間の延長やイベントの充実など、市職員にできない運用面を活性化させること
- ③すべて民間企業に委託し、民間企業の最新のノウハウを取り入れること
- ④その他
- 無回答

## ○ 「使っている/使っていない」の比較

- いずれの年代も使っていないグループの「現在の運用方法（市職員による対応）」を継続すること」の回答割合が高い。

## ○ 年代・項目別の比較

- 10代以下では「現在の運用方法（市職員による対応）」を継続すること」の回答割合が特に高い。実際の利用機会が少ない世代と思われ、現状の状況も把握していない可能性があるため、注意が必要である。
- 20代以上では、「民間企業への一部委託（指定管理等）により、開館時間の延長やイベントの充実等市職員にできない運用面を活性化させること」の割合が高い。



### (3) まとめ

本アンケートでは、當麻複合施設整備に関する市民意見の把握を行った。調査では、10代以下の回答割合が50%ほどで多くの若い世代の意見を伺うことができ、今後の基本計画策定等に関して、方針に沿った形で市民意見の反映が可能になると思われる。また、若い世代のみならず、幅広い年代から意見が集まり、年代別傾向も把握ができた。

全体的な傾向として、従来の「公共施設」としてだけでなく、新しい要素が加わったにぎわいのあるエリアとなることを望んでいる。本調査結果からも、複合化によりエリア再編を行っていくことは、市民視点・公共FM的視点からも有効的なまちづくり手段といえる。

下記にこれまでの集計・分析結果から、改めて年代別に傾向と考察をまとめる。

#### 1) 10代以下

##### ■現状使用時の気になる項目に対して

使っている/使っていないグループともに現状の當麻エリアの利用に際して、特に問題なく、満足している傾向である。使っているグループの中でも月1～2回、年に数回程度の利用割合が高いので、そもそものエリア利用が少ないと思われる。

##### ■新施設で考慮すべき整備方針に対して

使っている/使っていないグループともに、各選択肢に対しての割合は同様な傾向である。特に両グループとも売店やカフェ等が入ったにぎわいのある施設を望んでいる。10代以下の利用増加のためには、民間施設と連携させて新たな価値が提供できる場所とすることが重要と思われる。また、他設問（自習室等に関するもの）の回答や自由記述からも、レジャー施設のようなものではなく、カフェや喫茶等気軽に利用できる民間サービスを望んでいることが予測される。

##### ■庁舎機能に対して

10代以下では庁舎の利用機会が少ないと思われるため、イメージで回答している可能性が高い。その中では、機能よりも空間的要素を重視する傾向である。しかし、10代以下はスマートフォンの利用が大前提であることから、10代以下が実際に庁舎を利用する年代になるまでのおよそ10年間で、申請や庁舎窓口のデジタル化等機能充実を図ることの方が、将来的な投資効果が高いと思われる。

##### ■図書館機能に対して

現状の図書館における、蔵書内容の更なる充実を望んでいる傾向である。空間的要素としては、図書館としての空間は前提としつつ、自習・グループ学習や友人との会話、飲食ができるようなスペースを望んでいる。当該エリア周辺は白鳳中学校を中心に、また隣接する大和高田市までを広域的視点で考えても10代以下を集客できるポテンシャルのある地域と思われる。葛城市の人口は、今後10数年間は微増（子ども世代も微増）と予測されていることから、図書館+多目的スペースのニーズは続いていくと思われる。

##### ■ホール機能に対して

ほかの年代よりも大人数を収容できるホールを望む声が多い。これは実際の利用の中心と思われる学校行事や部活動での発表会等のイメージからと予測される。しかし、具体的に利用時を想定すると、①発表会等を行うことができるホールは市内にもほかにある状況+広域連携により周辺市町のホール利用も実現していく可能性が高い、②学校行事等で遠くのホールを利用する場合

はバス等が中心であり自分で移動することは少ない、以上のことから必ずしも當麻エリアに大規模ホールは必須ではないと考える。

#### ■居室機能・共有スペースについて

居室機能に求めるものの傾向としては、ほかの世代よりも音や声が周囲へ配慮されるような居室を望んでいる。これは、10代以下の若い世代の、公共空間での行動リテラシーが備わっていると読み取れる半面、厳格に利用ルール等を設けすぎることが利用への障壁となる可能性があるとして解釈ができる。施設の運営側には時代・ニーズに合わせた柔軟な対応が求められる。

共有スペースに関しては、新施設方針と同様にカフェ等の飲食スペースを望んでいる。ただし、陳腐なものであれば、特に若い世代の利用にはつながらないため、行政でも民間企業のようにマーケティング的発想からSNS等から市場調査を行うことは、今後のあり方として取り入れるべきである。

#### ■利用料金・運用方法に対して

利用料金に対しては、実際の利用がまだ少ない世代であると思われるため、イメージとしてできるだけ安価で利用可能なこと望んでいると思われる。しかし、一般的な消費行動に落とし込んで考えると、我々は対価に見合うと判断したもの・ことに対して支払いを行う。若い世代も例外ではないため、サービスの質の担保とともに公共としての線引きをどこで行うかのバランス検討が適正な受益者負担へとつながるであろう。

運用方法に関しても同様であり、現状をよく把握できていないと思われるため、現状と同じ運用方法を望む傾向である。

## 2) 20～50代

#### ■現状使用時の気になる項目に対して

使っている/使っていない両グループ間では、一つ大きな特徴がある。使っていないグループは現状に対して特に不満点はないという傾向が強くなり、使っているグループでは利用に際して何かしらの懸念点を抱えている。その中でも、リラックスできる場所がない、子どもを連れて行きにくいという空間的な要素と、IT対応や窓口対応等の利便性に関する機能的要素を求める声はやや多くなる。

20～50代は特に、子育て～現役の様々な属性を持つ年代である。本アンケート調査のみならず、今後の整備段階での市民ワークショップ等において、多様な属性の市民にどのような側面があるのかを更に認識する必要がある。

#### ■新施設で考慮すべき整備方針に対して

各選択肢の割合は10代以下とほとんど同様である。全体的な方向性としては、新施設並びに當麻エリアがにぎわいのあるものとなること望んでいると読み解いて良いだろう。なお、各機能に対しては、10代以下よりもよりリアルな意見を持つと考えられるが、施設機能別の考察は下記に続く。

**■庁舎機能に対して**

空間的要素よりも、総合窓口や電子申請等の機能効率化を望む声が4割ほどある。特に、ほかの世代と比較して、電子申請のように、窓口に行かなくても完結できる機能を求める割合が高くなっている。この世代(10代も含むが)はスマートフォンやPC等のデバイス知識を有したまま、将来的に高齢化して年代が上がるため、長期的視点からICT活用を前提として庁舎機能を整理することは望ましい。

**■図書館機能に対して**

本の要素として、子ども向けの図書の充実を望む割合が他の世代よりも2割強多くなっている。加えて、空間的要素として様々な閲覧室の充実を望む声が多い。この世代が図書館を利用する際には、子どもと一緒に利用することが多いことが読み取れる。また、子どもが求める本の充実とともに、自分自身も利用者として図書館体験が充実する空間を望む。また、いずれの年代にも共通することであるが、静かに読書・学習ができる環境を望む声が2割ほどある。現状として閲覧スペースが十分でない当麻図書館に対して、図書館ならではの空間体験を望んでいると考えられる。

**■ホール機能に対して**

この世代、特に使っているグループではほかの要素と一体となったホールや可変性の高いホールを望む割合が5割ほどである。また、ほかのホールがあるために特に必要ないと答える割合が3割ほどであることから、大規模なホールは望まれていないと読み取れる。この傾向と、上記の図書館に関する傾向を合わせて考えると、イベントや目的に応じて小規模ホールとして機能するが、平常時は図書館の閲覧室等として一体で利用できる、種々の活動が許容される空間としてのホールが望まれていると考える。再整備を行う複合施設も床面積としては限度があるため、企画者側としてもミクストユースな考え方は重要である。

**■居室機能・共有スペースについて**

居室機能として、ほかの年代と異なる傾向を見せるのは、営利活動に対して一時貸し付けができる部屋を望む割合が高いことである。これは現状の貸し館機能をはじめとした公共施設の有効活用がうまく進んでいない現状を考慮しての意見、若しくは自らがプレイヤーとなり、公共施設で自主的な活動を望んでいるという可能性を示す。当該選択肢のみでは正確な判断は難しいが、公共施設での営利活動の許容は、自主的な市民による施設有効活用を促進する可能性が考えられる。なお、全体的な傾向としては可変性が高く、様々な活動が行えるような居室を望んでいる。また、共有スペースについては他の年代と同じような傾向と特徴である。

**■利用料金・運用方法に対して**

民間企業への一部委託により、これまで市職員のみでは対応が難しい運用を望む割合が高く、またこれに設備やサービスが伴えばある程度の費用負担も許容できるという傾向がある。なお、この世代は生産活動の主体であることから、行政に対しての視座も高く、民間委託の選定等には確かな透明性の確保が求められるであろう。

### 3) 60代以上

---

#### ■現状使用時の気になる項目に対して

本アンケート調査では60代以上の使っていないグループの母数が非常に少ないことから、グループごとの比較は正確性に欠けるが、現状に対しての傾向は、リラックスできる場所がないことやバリアフリー対応が整っていないという空間的要素と、窓口対応への課題を抱えている。

#### ■新施設で考慮すべき整備方針に対して

幅広い年代が一緒に使える施設となることを望む割合が5割を超えている。また、ほかの年代より割合は低くなるが、カフェ等が入ったにぎわいのある施設を望む声は3割ほどである。

#### ■庁舎機能に対して

ほかの世代よりも受付窓口の増加、総合窓口を望む割合が高く、考え方として庁舎サービスを受ける際には現場での対応が前提となっていると思われる。前述までの庁舎機能のICT化は推進していく必要があるが、一方で誰一人取り残さない公共サービスという観点からは、一定の庁舎ハード機能は維持していく必要があると思われる。

#### ■図書館機能に対して

本の要素としては、現状の蔵書内容の更なる充実を望む割合が高く、空間的には20～50代と同じような傾向である。また、各選択肢もほとんど同じような割合である。ほかの年代と比較して図書館を利用する割合が低いことから、各選択肢にほぼ均等に回答がばらついたと思われる。

#### ■ホール機能に対して

現状のホール（主に貸し館機能）の利用の中心と思われるこの世代は、これまでのコミュニティ活動が継続できる設備を望む傾向である。空間的要素としては、20～50代と同じような傾向であり、大ホールよりも中規模・可変性のホール。また、ホールよりもむしろ自身の活動が可能な貸し館を重視していると考えられる。

#### ■居室・共有スペースについて

一般的な文化施設に備わる、調理室や和室等を望む割合が低いことは注目すべき点である。当該選択肢は、全年代共通で低い割合であるので最低限の設備で良い可能性が高い。最も高い割合を示すのは、可変性の高い居室である。

#### ■利用料金・運用方法に対して

基本的には20～50代と同じく、一部民間委託、設備・サービスの充実があればある程度の費用負担は許容できるという傾向である。ただし、現在の運用方法（市職員による）と回答する割合は20～50代よりも高く、加えて自由記述等からも直営による公共性の担保という観点を重視する傾向があるということは、今後の検討の一要素として考慮すべき点である。

## 3 市民ワークショップ

本計画の検討に当たり、新しい複合施設に求められる機能やサービスを整理するため、市民ワークショップを実施しました。以下に実施結果の詳細を掲載します。

### 3-1 市民ワークショップの概要

#### (1) 実施目的

葛城市旧當麻庁舎は、昭和 43(1968)年に建築以来、當麻町及び葛城市の庁舎として 54 年間行政サービスを提供してきたが、耐震性能等に問題があり令和 4(2022)年度中に除却が完了した。また周辺施設の當麻図書館、當麻文化会館も老朽化の進行が課題となっている。

今後も全国的な人口減少社会の到来や少子高齢化の進展、ICT 技術の進歩、自治体の厳しい財政状況等が見込まれる中で、公共施設を取り巻く環境は大きく変化しており、この変化に対応した、新たな施設のあり方が求められている。そこで葛城市では将来的な旧當麻庁舎周辺エリアに誰もが気軽に立ち寄れる地域の活動拠点を創出することを目的とし、公共施設マネジメントの観点も踏まえ、當麻文化会館を全面改修し、一つの施設に三つの要素（當麻庁舎・當麻図書館・當麻文化会館）を集約した複合施設整備を実施する。

本ワークショップは、葛城市當麻複合施設整備基本方針にのっとり、今後真に必要とされる機能や規模を定めるため、市民から直接意見・提案を聞くことを目的に実施した。また、複数の要素が隣り合った複合施設である特長を最大限に生かし、行政施設としての従来の目的に加えて、意図していなかった、様々な分野の異なる人や活動と出会い、交流し、世代やジャンルを超えた相乗効果が期待できる複合施設を目指すために「偶然の出会いや発見（セレンディピティ）」をキーワードに進めるものとした。

#### (2) 実施方法

全 3 回のワークショップは、段階的に、新しい複合施設の具体的なイメージを膨らませて考える作業である。参加者は 6 つの班に分かれ、「地域にどんな特徴があるのか」、「これからの公共施設に求められることはなにか」、「新しい複合施設にはどんな機能が必要か」等について意見を出し合い、全体発表を行った。本ワークショップの成果は、これまで取り組んできた職員ワーキンググループでの検討や新しい複合施設に関する市民アンケート結果とともに、葛城市當麻複合施設整備基本計画に反映され、次年度以降の設計のための仕様となる。

## (3) 開催の経過

回	内容・テーマ
第一回	■基本方針説明 ■事例紹介 ■ワークショップ概要説明 ■ワーク「地域の特徴を確認しよう」
令和4年10月16日(日)14~17時 参加者数：30人	
第二回	■前回ワークショップ振り返り ■ワーク「出会いの場を検討しよう」
令和4年11月13日(日)14~17時 参加者数：37人	
第三回	■ワークショップ位置づけ再確認 ■前回ワークショップ振り返り ■ワーク「施設機能案を検証しよう」
令和4年12月11日(日)14~17時 参加者数：34人	

## 3-2ワークショップの記録

## (1) 第一回「地域の特徴を確認しよう」

作業1 「自分のキャラクターを設定しよう」	自分自身若しくは架空のキャラクターを設定し、旧当麻庁舎エリアにおける行動を想像する。キャラクターになりきり、自分と他人の考え両面から地域を再発見する。
作業2 「対象エリアにおける行動を想像しよう」	設定したキャラクターになりきり、どの施設で、どのお店で、どこの公園で何の活動をするのかをグループで共有。自分の知らなかったエリアの魅力を掘り起こす。
作業3 「新しい出会いの可能性を考えよう」	グループメンバー同士のキャラクター間で今までにない新しい出会いはないだろうか。これまではすれ違っていただけの人とも、まだ見ぬ出会いの可能性を発見する。



## ア.結果概要

本ワークショップは當麻複合施設整備の基本計画を策定するために実施したものである。具体的な設計に入る前の、施設に必要となる機能やボリュームについて市民意見から拾い、形作る作業である。そのため、計3回のワークショップは段階的に施設イメージを固めていく流れとした。

第一回ワークショップでは、対象となる旧當麻庁舎周辺地域の特徴を確認する作業を行った。設定したキャラクターになりきり、人との出会いや活動を通して地域を確認する流れだったが、「出会い」と「地域」という一見すると関連付けづらいものであったため、作業が難しい場面もあった。しかし、完成した作業シートをみると、班によって出会いや活動がどの場所・施設で行われるかのポテンシャルを確認できたと感じる。



## イ.第一回ワークショップのまとめ

## A 班

## ○活動について

- 文化会館周辺 : 申請・手続き・投票、本を借りる・探す、休憩、散歩・ランニング、練習・発表会・展示会
- 磐城駅周辺: 買い物・食事、サイクリング
- 体育館周辺: 運動・ランニング
- 磐城小周辺: グランドゴルフ
- その他: コンビニで買い物

## ○出会いについて

- 文化会館: 文化会館利用
- 図書館: 図書館利用
- その他: 手続き、ランニング・散歩

## B 班

## ○活動について

- 文化会館周辺: 散歩、演劇、将棋・絵画、喫茶、友達のお供、漫画・読書
- 磐城駅周辺: 食事・買い物
- 体育館周辺: キャンプ、サイクリング・ランニング、ジム、子どもと遊ぶ、サッカー・フットサル
- 磐城小周辺: 授業参観、仮眠、通院
- その他: -

## ○出会いについて

- 文化会館: お絵かき、授業参観後食事
- 図書館: 図書館
- その他: 医院、学校、キャンプ・サッカー、駅前



## C 班

## ○活動について

- 文化会館周辺：本を借りる、申し込み、詩吟を教える、調べもの、子育てサークル、子どもと文化教室参加、会議、グランドゴルフ、試合応援
- 磐城駅周辺：居酒屋・飲み会、ふろ、ウォーキング、会議、郵便を出す、宣伝、
- 体育館周辺：健康体操、テニス、バトミントン、ジム、友達とランチ
- 磐城小周辺：犬の散歩、散歩、ウォーキング
- その他：万代に買い物、病院、JA 振り込み、ゆうあいステーション

## ○出会いについて

- 文化会館：サークル・教室参加/主催、会議
- 図書館：調べもの・本を借りる
- その他：万代、喫茶、スポーツセンター、農村広場、ゆうあいステーション

## D 班

## ○活動について

- 文化会館周辺：グリーンカレーをふるまう、手続き、子どもを預ける、歌・音楽・落語、花を展示、カフェで休憩、散歩、絵・書道
- 磐城駅周辺：買い物
- 体育館周辺：ママさんバレー、プール、温泉、筋トレ
- 磐城小周辺：神社巡り
- その他：畑作業、山で花摘み、野菜作り

## ○出会いについて

- 文化会館：グリーンカレー→野菜を使う→落語、子どもが文化に触れる
- 図書館：落語読み聞かせ
- その他：野菜フリマ、手続き、筋肉を見せ合う

## E班

## ○活動について

- 文化会館周辺：手続き・同行、ミッケ・新聞・本を読む・借りる、ゲートボール・  
グランドゴルフ、調理、ピアノ発表会※中央公民館の話がしたい
- 磐城駅周辺：阿倍野・大阪
- 体育館周辺：バトミントン・スポーツクラブ、試合見学、孫の参観
- 磐城小周辺：初詣・七五三、ウォーキング、孫の送迎、鉄棒、グランドゴルフ、
- その他：－

## ○出会いについて

- 文化会館：サークル活動後、発表会、ロビー
- 図書館：図書館
- その他：グランドゴルフ・スポーツ、参観、手続き、七五三・散歩

## F班

## ○活動について

- 文化会館周辺：レポート・勉強、散歩
- 磐城駅周辺：はしご酒・推し・買い物・映画・カフェ・出会い・服・ゲーム・通学・  
親戚の家
- 体育館周辺：ミニバスケット・テニス・バレーボール・バトミントン
- 磐城小周辺：お酒を飲む、絵を描く、勉強
- その他：コンビニで買い物、自宅でゆっくり、釣り

## ○出会いについて

- 文化会館：絵を褒められる
- 図書館：勉強
- その他：駅であう

## ■活動と出会いの実態から見る地域の特徴

### 「活動」の実態

- ・文化会館周辺：中学生は学校行事以外ではあまり使っていない
- ・磐城駅周辺：学生以外は電車移動が少なく使っていない
- ・体育館周辺：使い方がスポーツに限定されているが、固定観念もあるのかも
- ・磐城小周辺：意外と様々な年代が交錯している場所かも
- ・その他：カフェや食事、買い物のできる場所が少ないという意見が多い

### 「出会い」の実態

- ・文化会館：同じ目的が出会いのきっかけ 世代を超えた広がりも
- ・図書館：図書館利用の「ついで」に出会いの機会がありそう
- ・その他：電車利用以外はウォーキングやランニングに注目

→旧當麻庁舎エリア周辺には、買い物や食事等ができる民間施設が多くないため、このエリアで消費行動以外の活動をするとなると、点在する公共施設を中心に展開している。しかし、第一回は架空のキャラクターを設定して書き出す作業であったため、実際の活動とキャラクターがしそうな空想の活動が混ざっているが、各施設の現状の利用率・稼働率等を考えると公共施設を使いきれしていない実態であるといえるだろう。

出会いについては、対象エリアの施設や場を十分に使えれば様々な活動を許容できることから、きっかけさえあれば世代を超えたこれまでにない出会いの可能性がある。また、今後の公共施設に限らず、単なる「出会いや発見」を求めるのであれば、インターネット、DX、アプリ、SNS、メタバース等、「建物」は必要ないかもしれない。しかし、新型コロナウイルスに伴う行動制限等を通して人と人による対面の「出会い」がなければストレスになること、そして実際に人と人が「出会いや発見」を共有する「場」は生活をより「魅力」的にする力を持つことを実感する機会になった。

このことから、今後新しく整備する複合施設が、将来も見据えた市民ニーズを拾い上げて地域での活動の中心拠点となり、今までに起こることのなかった「出会いや発見」のきっかけを与える存在となれば、充実した公共サービス+意図していない副次的な価値（例えば人と人との出会い）が提供できるというポテンシャルを持つ地域であるという特徴を確認できた。

## (2) 第二回「出会いの場を検討しよう」

<p>作業1 「魅力的な「場」に必要な「こと」を提案する」</p>	<p>自然と人が集まる魅力的な施設（≡場）にするために必要な「こと」とはなにか。自分たちの活動や思いを考えることで、市民に真に求められる「場」を考える作業。</p>
<p>作業2 「相乗効果が期待できる「こと」を整理する」</p>	<p>作業1で整理した「こと」は相性の良い組み合わせで相乗効果が生まれる。使い方や自由度を工夫することで、今までにない「出会いや発見」を見つける。</p>
<p>作業3 「複合施設全体のイメージを整理する」</p>	<p>全国の複合施設の事例から班ごとのイメージに最も近い写真を選び、各班の施設像を想像する。事例を知ることによって具体的なイメージが浮かび上がらせる。</p>



## ア.結果概要

第二回ワークショップは、魅力的な「場（≡施設）」をつくるために必要な「こと（≡活動）」を考える作業。建物がきれいに新しくなったとしても、そこを使う人がいなければ意味がない。つまり自分が新しい複合施設でいたい「こと」から考えることで市民に使われる施設を考える作業であった。結果として「こと」から考えられている部分も多かったが、「～が欲しい」という内容も多くあり、その先の活動・使い方の想像が難しかったことから、次回の課題とした。



### イ. 第二回ワークショップのまとめ

必要な「こと」を意見として市民側からくみ上げて、これを施設機能に落とし込む作業は行政側（策定支援業者を含む）の作業分担であるが、作業内容から既に施設機能に対して「こと」の意見が多くあった。結果としてはエリアに現在存在する、庁舎・図書・文化に加えた計11の機能に落とし込んだ。この機能整理は、第三回の作業内容である「施設像を形としてイメージする」ための基礎資料であるとともに基本計画に直結する内容である。

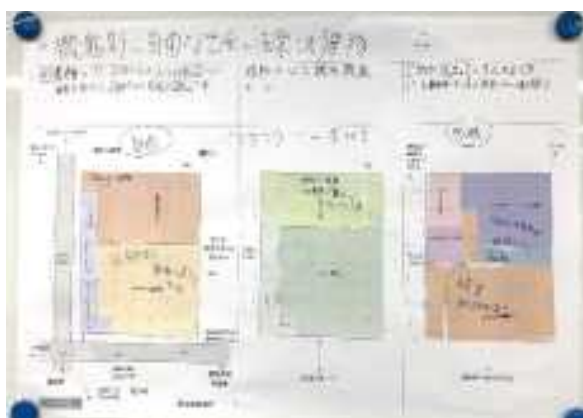
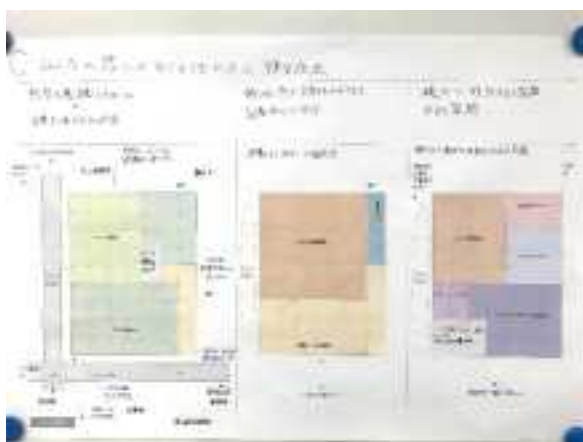
**(3) 第三回「施設機能案を検証しよう」**

<p>作業1 「これまでに検討した機能を整理する」</p>	<p>第二回ワークショップまでの意見からまとめた11の施設機能を整理する。どの階に何の機能があるといいか、大きさにとられず各階のコンセプトを考える。</p>
<p>作業2 「各階に収まるように機能を配置する」</p>	<p>作業1で整理した、各階の大まかな機能を枠内に配置する。枠に収まらない機能をうまく配置するために、相互の関係性を考慮しながら調整を行う。</p>
<p>作業3 「配置した機能の使い方を提案する」</p>	<p>出来上がった各階の配置案をもとに使い方、運用方法を提案する。施設を使うことを想像しながら管理面についても考えることで、利用者・管理者ともに使いやすい施設となる。</p>



## ア.結果概要

第三回ワークショップは、これまでの活動から落とし込んだ機能についてゾーニングを行い、具体的に施設をイメージする作業であった。具体的な施設を考える設計に近い作業であったため、参加者も想像がしやすく各グループで特徴のある案が完成した。一方で、配置した各機能の大きさは仮のものであったが、参加者からは今ある機能（＝公共サービス）が縮小されてしまうのではないかと心配する声もある。公共サービスの充実＝広さ・大きさではないということも設計段階でも積極的にワークショップ等を通して行政・市民が一体となって検討する必要がある。



## イ.第三回ワークショップのまとめ

○A班：誰もが集い、親しみのあるフロア

■1F：利便性が高い

【配置機能】

●庁舎窓口 ・ホール機能 ・託児スペース ・フリースペース ・子ども図書機能

【使い方】

- 住民がよく使う窓口機能である住民票や期日前投票等は1階に配置して利便性に配慮
- 外から楽しげな雰囲気を見せるため、子ども図書館を開口部に面して配置。場所は子どもの利用を考えて、車通りの少ない東側
- 共用空間には作品展示等で各機能を緩くつなぐ

■2F：図書機能が中心

【配置機能】

開放的な図書機能 ・大きな会議室（研修室） ・静かな図書機能

【使い方】

- 図書機能を中心とし、静かな機能と開放的な機能は仕切りや運営手法で解決する
- 追加機能として会議室。単体機能でも図書機能との連携も図れる（読み聞かせ会、勉強会等）
- 壁、間仕切りで音問題を解消する

■3F：目的別の諸室フロア

【配置機能】

●キッチンスペース ・防音機能 ・和室 ・会議室 ・庁舎窓口

【使い方】

- 教育委員会等の庁舎執務機能は最上階
- 生涯学習機能である、現在の文化会館にある諸貸室をうまく配置したい
- 二上山を望む方角には、テラスバルコニー席を設け、眺望にも配慮

○B班：誰もが使いやすい施設

■1F：みんなが来やすい

【配置機能】

●庁舎窓口 ・開放的な図書機能 ・子ども図書機能 ・ATM ・チャレンジショップ

【使い方】

- みんなが来やすい、使う頻度が多いものを配置（住民票等）
- 開放的な図書機能（飲食可能等）も上記と同様の理由で配置

■2F：静かにゆったりくつろげる

【配置機能】

●静かな図書機能 ・庁舎窓口 ・託児スペース ・キッチンスペース

【使い方】

- 静かにゆっくりくつろげる
- 本と向き合う、静かに学習する
- キッチン、託児所は1Fが望ましいが、スペースの都合上2Fに配置
- 音の問題は間仕切りや壁で対応する

■3F：多目的室

【配置機能】

●ホール機能 ・多目的スペース（生涯学習） ・フリースペース ・防音機能 ・その他（外で本を読める、屋上、チャレンジショップ、ATM、健康診断、喫煙スペース）

【使い方】

- 多目的になんでもできるフロア
- もし、屋上も可能であれば活用することで、活動の幅が広がる



○C班：みんなの思いが収まりきれない複合施設

■1F：日常生活+防災を意識

【配置機能】

- 庁舎窓口 ・ ホール機能 ・ 開放的な図書機能 ・ ベンチ ・ 植栽 ・ ATM ・ 子ども図書機能

【使い方】

- 防災を意識したホール→避難が容易な1F
- 日常生活のための庁舎→窓口は1Fに配置

■2F：図書機能中心フロア

【配置機能】

- 静かな図書機能 ・ 開放的な図書機能 ・ 防音機能

【使い方】

- 静かなところで調べものができる図書中心のフロア
- 図書はワンフロアに固める→蔵書が多いため

■3F：個々人の自由な活動

【配置機能】

- 子ども図書機能 ・ 託児スペース ・ フリースペース ・ キッチンスペース ・ 多目的スペース  
(生涯学習) ・ その他(ベンチ、しゃべれる場所)

【使い方】

- 親子で利用できる自由空間
- 個々人の自由な活動のための空間

○D班：実益+多世代の出会い!!豊かな出会い!!&ニーズ!!

■1F：来る人が便利に！入りやすさ！

【配置機能】

- 庁舎窓口 ・ 静かな図書機能 ・ 子ども図書機能

【使い方】

- 庁舎窓口+図書機能(メインスペース)
- 来る人が便利に!
- 入りやすさを考慮して図書機能中心に配置

■2F：オールマイティスペース

【配置機能】

- 多目的スペース(生涯学習) ・ 庁舎窓口 ・ キッチンスペース ・ 静かな図書機能+開放的な図書機能(学習スペース、メディアセンター)

【使い方】

- 庁舎窓口は分散(1Fスペースの都合)
- 多目的に活用するスペース(オールマイティスペース)

■3F：充実のスペース+託児所

【配置機能】

- ホール機能+その他(ホール拡大)壁の位置によって様々な使い方ができる ・ 託児スペース ・ フリースペース ・ 防音機能 ・ 開放的な図書機能

【使い方】

- ホール+α(音楽、芸能等)
- 充実のスペース、託児所もある(Enjoyホール)
- ホールにフリースペースを隣接させて小さくも大きくも使える可変性のある空間に
- 図書機能を分散させ、各階でグラデーションをつけて役割分担

○E班：機能別に自由な出会いを楽しむ建物

■1F：自由を求める空間

【配置機能】

- 子ども図書館（おはなし会コーナー、紙芝居） ・ 多目的スペース（生涯学習）（ストリートピアノ、ミニコンサート） ・ 開放的な図書機能

【使い方】

- 図書館とフリースペースで人と出会い自由な出入り、目的なく自由に過ごす
- 外観はガラス張りにして自由に簡単に出入り可能

■2F：役所サービス提供機能

【配置機能】

- 庁舎窓口 ・ ホール機能（移動式座席、上下昇降式舞台でフルフラット床） ・ その他（フリースペース、ATM）

【使い方】

- 役所サービス提供機能
- 南面の日当たりの良いエリアにフリースペース

■3F：充実のスペース+託児所

【配置機能】

- 多目的スペース（生涯学習）（間仕切りは移動式） ・ 静かな図書館（自習室、本と向き合う） ・ 防音機能（鏡張り） ・ キッチンスペース ・ 託児スペース

【使い方】

- 目的が定まっている人のエリア（制限）
- 1Fと離れている（自由⇔制限）

○F班：場所の特性を活かした人が集まる複合施設

■1F：目的別に自由に入出入り

【配置機能】

- 庁舎窓口（みんながよく使う機能） ・ 開放的な図書機能（カフェ） ・ 静かな図書機能（一般的な図書機能） ・ フリースペース

【使い方】

- その人の目的（庁舎窓口か図書機能）によって入り口を二つに分ける
- 外観はガラス張りでおしゃれな雰囲気にするので行きたい、入りたいと思えるようなフロア。
- カフェを中心に配置して活動の広がりを生む

■2F：自然を感じられる

【配置機能】

- 静かな図書機能 ・ ホール機能 ・ キッチンスペース ・ 多目的スペース（生涯学習）
- 防音機能

【使い方】

- 自然を感じられる静かな図書機能+日当たりの良いところでそれぞれの好きなことができる空間+ホール機能
- 階段、エレベーターで上下階のつながりを演出

■3F：子ども向け+事務室

【配置機能】

- 庁舎窓口（事務室+普通の人があまり行かない） ・ 託児スペース ・ 多目的スペース
- 子ども図書館 ・ その他

【使い方】

- エレベーターのあるところには毎日利用できるような託児スペース⇔普通の人があまり利用しないスペース
- 階段、エレベーターで上下階のつながりを演出

### ■各グループの配置案から見えてきた施設機能案

どのグループも1階に庁舎窓口を配置しており、旧當麻庁舎の除却の影響によるエリアの利便性を考慮している印象である。1階はいわば建物のメインであり、施設の印象の大部分が決まるため重要である。1階の印象について、グループの配置案を見ると大きく二つに分類されると思われる。一つは、開放的な図書機能やフリースペースを大きく打ち出して、外から施設内の様子を見せ方を重視し、今まで公共施設を使っていなかった人たちも呼び込むような意図を感じるものである。もう一つは、庁舎窓口をメインにした実用性を考えたものである。この複合施設の目標である「誰もが気軽に立ち寄れる」を考慮しながら利便性も損なわないためにはどちらも欠けてはならない視点であるが、これまで公共施設を使っていなかった潜在的利用者へのアプローチはより重要な要素となると考える。2、3階については比較的どのグループも、庁舎のバックオフィス機能や目的の定まった活動を行う部屋を配置しているが、第二回ワークショップまで考えてきた機能同士の相乗効果や連携、出会いといった観点が多少考慮されにくくなっている印象である。

この新しい施設は當麻庁舎、文化会館、図書館が複合化されるため、当然現在の合計床面積よりは小さくなる。そこを共有や共存の考え方で諸室を整理して、これまでの活動も包括して新しい出会いや発見を通して地域の拠点を目指す方向である。全3回のワークショップでは、三つの機能についてこれまでの室の使い方と共有で使える可能性があるという両面から検討・作業を行ってきた。共有することによって今までにない「出会い」や「発見」の幅の広さの魅力も感じながらも、既存の部屋のように「単独で成立した方が良いのでは？」という考え方もまた、参加者の意見から明らかになった。今後、設計へと進む中でより空間として具体的なイメージを想像できるフェーズにて、再度行政・市民とのコミュニケーションを図りながら進める必要があるだろう。

### 3-3まとめ

本ワークショップは、基本計画策定に向けた、設計前段階のものであったため、その性質上具体的な施設イメージがしづらいものであったと思う。その中で、葛城市のこれまでの公共施設とこれからの公共施設について、新しい複合施設だけに限らない様々な議論が市民も交えて行えたことは非常に意義のあるものであったと考える。

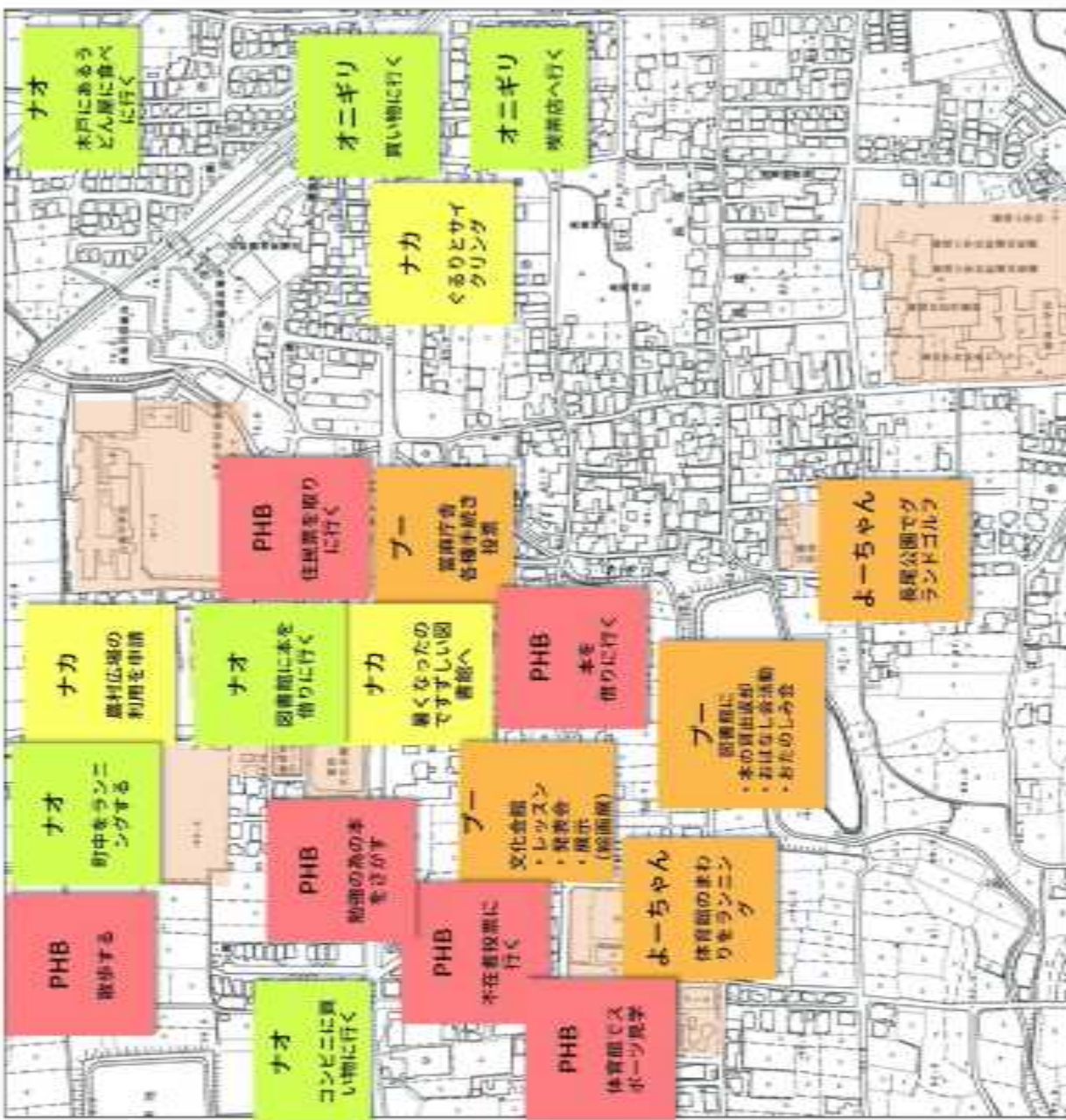
もともと、この複合施設は旧當麻庁舎の耐震性の影響に端を発した、公共施設マネジメント・再編の流れである。

一般的にファシリティマネジメント（以降、「FM」という。）では、組織の経営目標を達成するために「財務・品質・供給」の観点からファシリティを企画・管理・活用する活動であると訳される。しかし、これを公共で考えると財務の負担を小さくすることが、表立って見えてしまう場合が多い。実際に全国の自治体の公共施設等総合管理を見ても、「延床面積は～%削減、一方で多様化する住民ニーズに応えるようにサービスを維持する」という表現が多く見られ、住民にとってはFMによってどのようなメリットがあるのかが分かりづらい状況である。※1

葛城市としては、今後公共サービスの提供先である市民に対しては、FMの出口戦略が必要となる。その最初の事例が、新しい複合施設で体験する「出会いや発見」であろう。基本計画は設計に入る前に機能や規模を定めるために策定するものであり、これをもって今後の設計に進む。具体的に部屋の大きさが決まり、内装が決まり、家具が決まり利用イメージが形作られてくる。この段階のときに、より市民にとっては複合化することのメリットを感じることができずである。そのため今後も継続的に行政・市民のコミュニケーションを取りながら進めていく必要があるだろう。新しい複合施設整備に向け、行政・市民の協働により進めるためのスタートを切れたワークショップであった。

※1：基本的に公共施設等総合管理計画は行政として今後の公共資産管理のあり方を示すためのものであるため、具体的な公共サービスについて触れられることが少ないことが実情である。

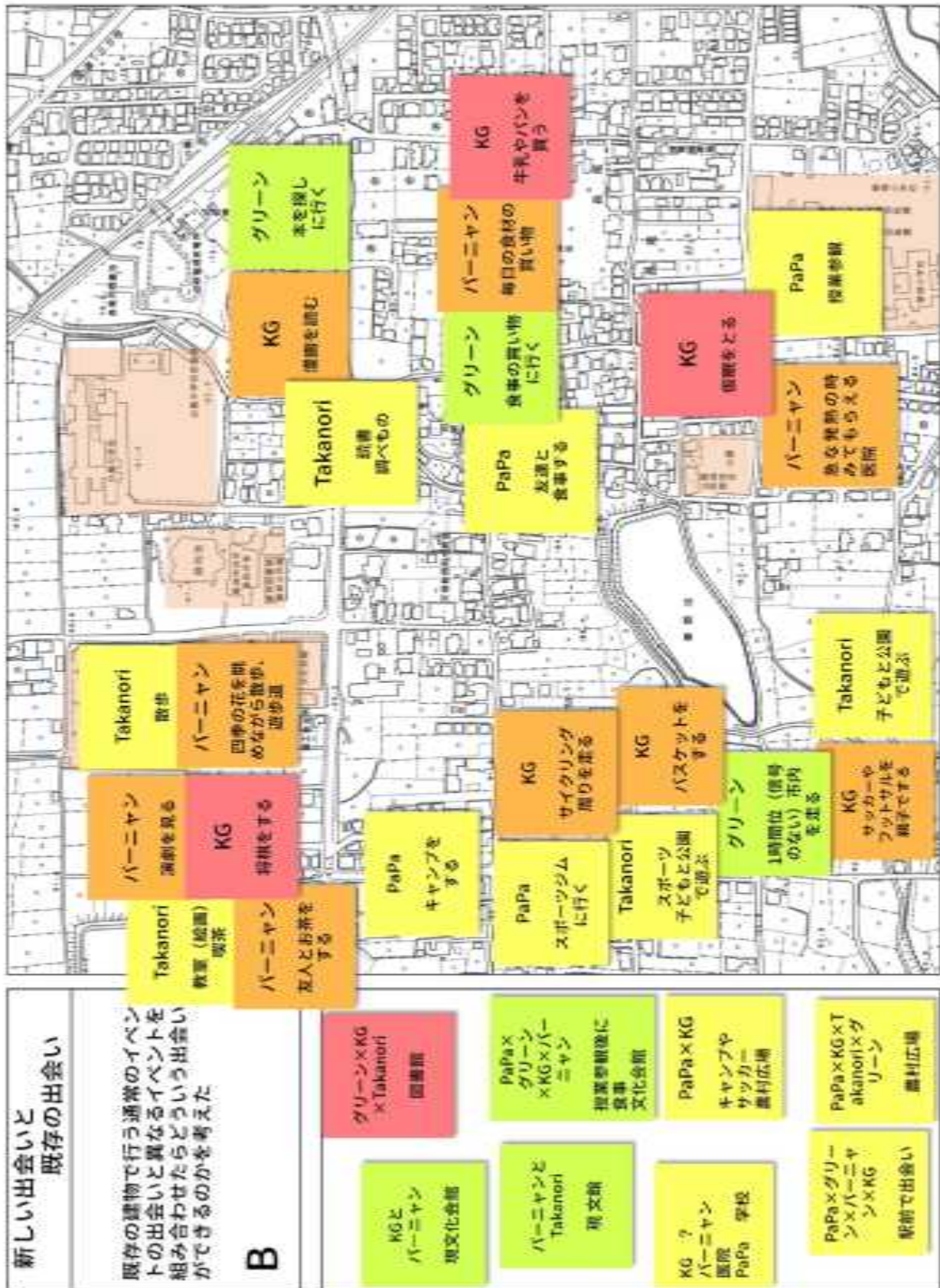
### 3-4参考資料

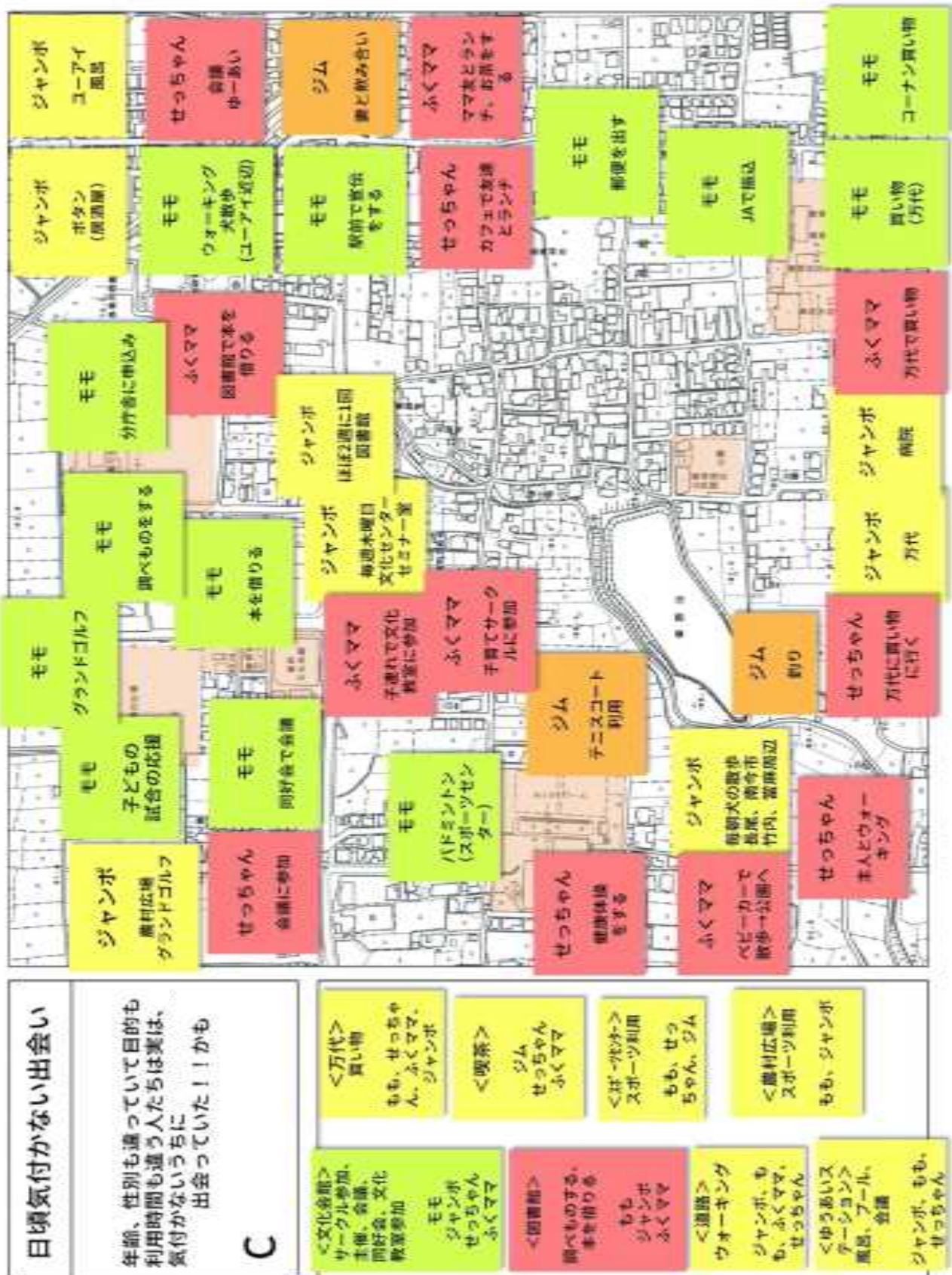


### 一期一会

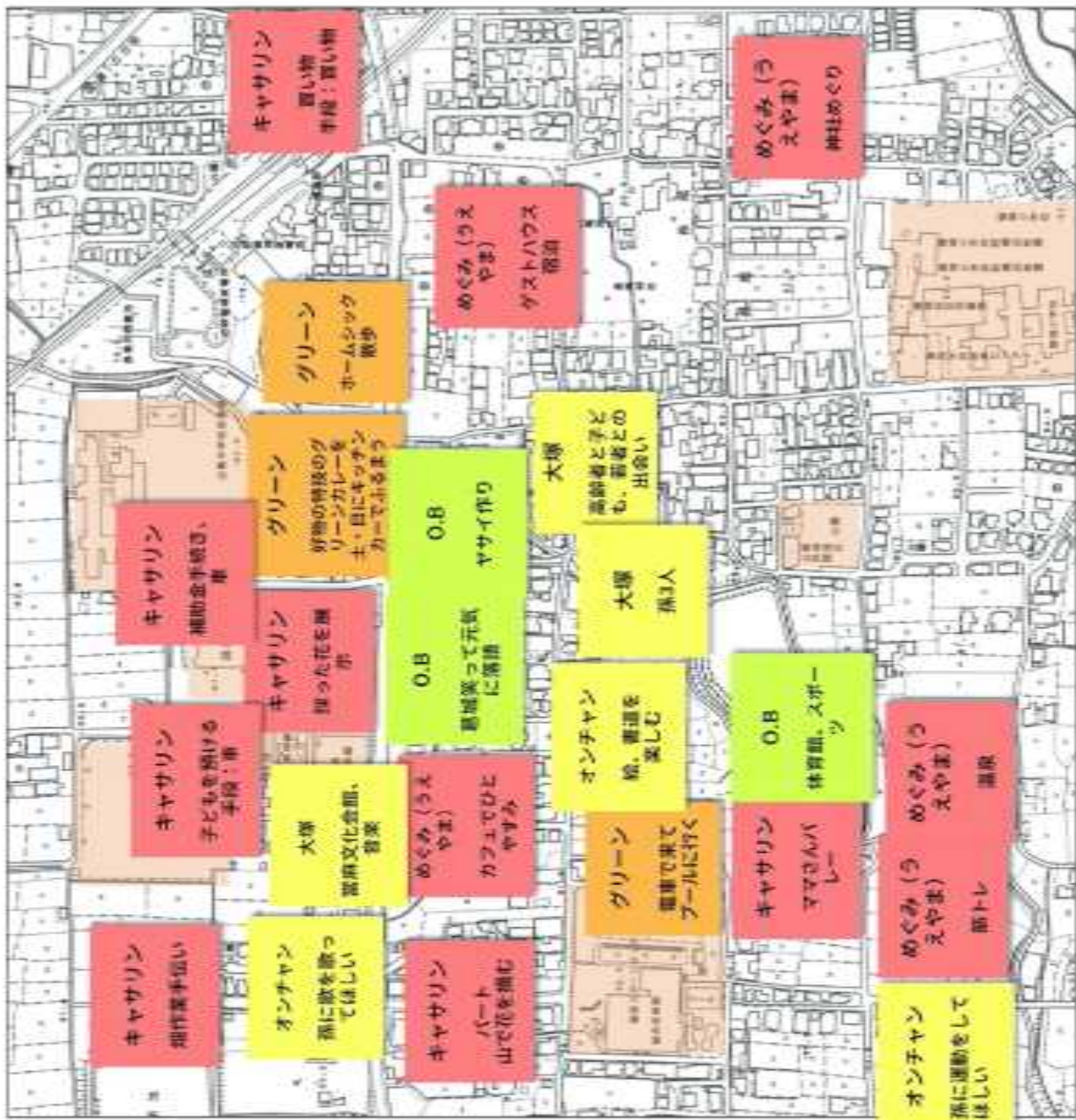
出会い、きっかけづくり  
話しかける第一歩の機会となる。  
道の途中、施設の中で普段出会  
われない人に会う。話しかけられ  
るきっかけ。  
**A**

<p>ブー× オニギリ 文化余館を利 用する</p>	<p>PHB×ブー× ナオ×ナカ 本を借りに行 く、利用しに 行く中で</p>	<p>PHB×ナオ× よーちゃん ランニング、 散歩、サイク リング</p>
<p>PHB×ブー× オニギリ× 図書に本を 借りに行く</p>	<p>PHB×ナオ× よーちゃん 図書館でグ ランドゴルフ</p>	<p>PHB×ブー× オニギリ× 買物に行く</p>







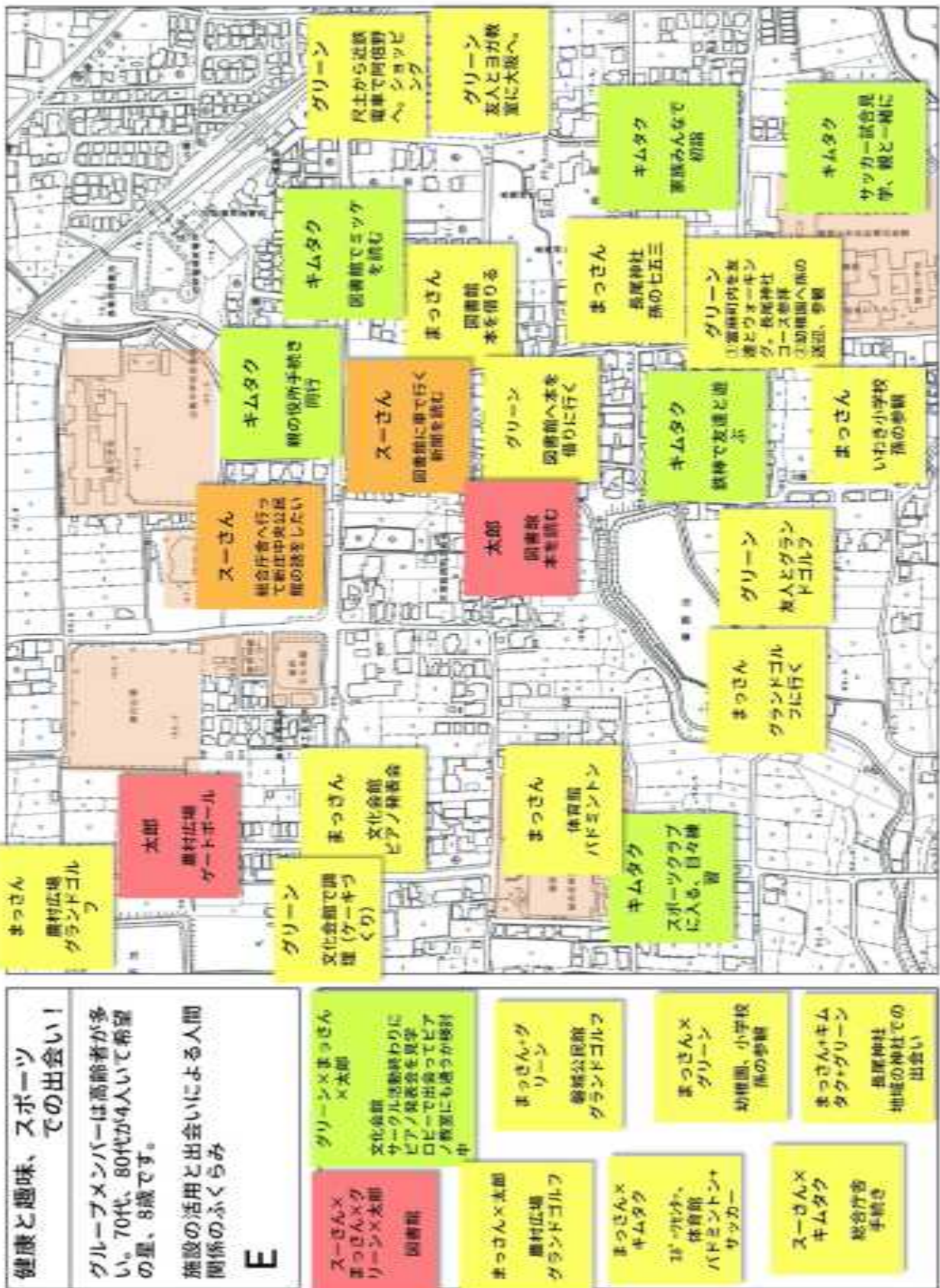


**グリーンカレーにつられて**

・地域で作ったヤサイを使ってカレーを作る  
 ・カレーのにおいにつられて落語、音楽に触れられる

**D**

- グリーン × OB × オン  
グリーンカレーにつられて落語を聞きながら人が食べる
- グリーン × オン  
トライアスロンに子どもを目標させる
- キヤサリン × OB × オン  
野菜フリーマーケット
- めぐみ × グリーン  
ゲストハウスの予約のあとにグリーンカレー
- キヤサリン × OB  
OBが作った野菜をキヤサリンがもろう
- キヤサリン × OB  
子どもが文化に触れる
- OB × 地域の子ども  
英語読み聞かせ
- めぐみ × グリーン  
お互いの前向を見せ合う



**健康と趣味、スポーツでの出会い！**

グループメンバーは高齢者が多い。70代、80代が4人いて希望の星、8歳です。

施設の活用と出会いによる人間関係のふくらみ

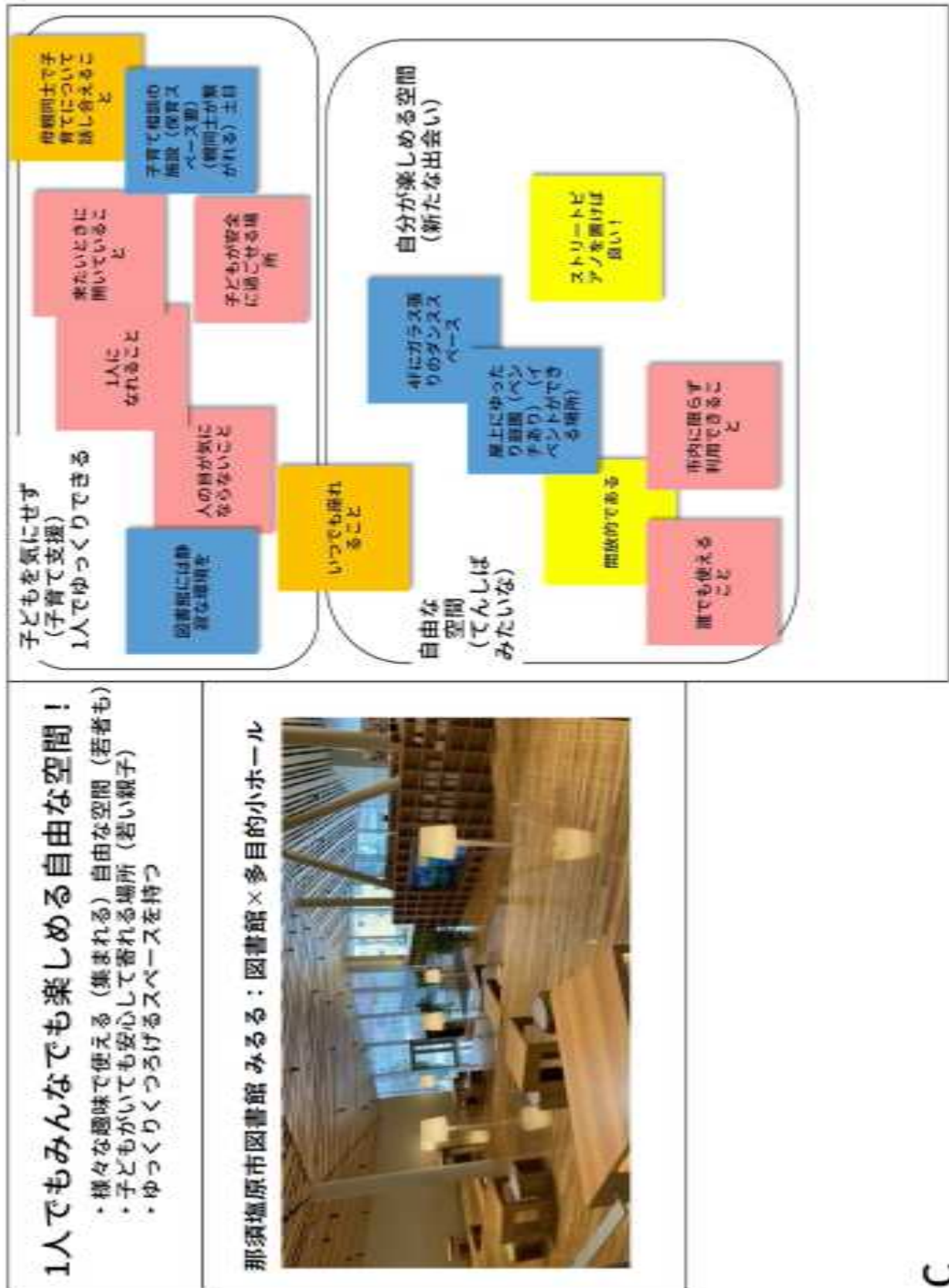
**E**

- スーさん × まっさん × グリーン × 太郎  
図書館
- まっさん × 太郎  
農村広場  
グラウンドゴルフ
- まっさん × キムタク  
おつかい、体育館  
バドミントン+サッカー
- スーさん × キムタク  
総合庁舎  
手続き
- グリーン × まっさん × 太郎  
文化会館  
サークル活動終わりに  
ピアノ発表会を見学  
ロビーで出逢ってピアノ教室にも通うが検討中
- まっさん × グリーン  
錦旗公民館  
グラウンドゴルフ
- まっさん × キムタク  
グリーン  
幼稚園、小学校  
孫の夢劇
- まっさん × キムタク × グリーン  
長尾神社  
地域の神社での  
出会い









## 文化・スポーツ・発表・食が 優雅に混じり合った場！！

(ベースは) 相乗効果の視点からキーワードは居場所！！  
(託児所・ベンチ (動と静) )

外の風が通る空間  
バリアフリー、楽しめる場所

学びの杜のいち カレード：図書館×カーテンで区切るお話しコーナー



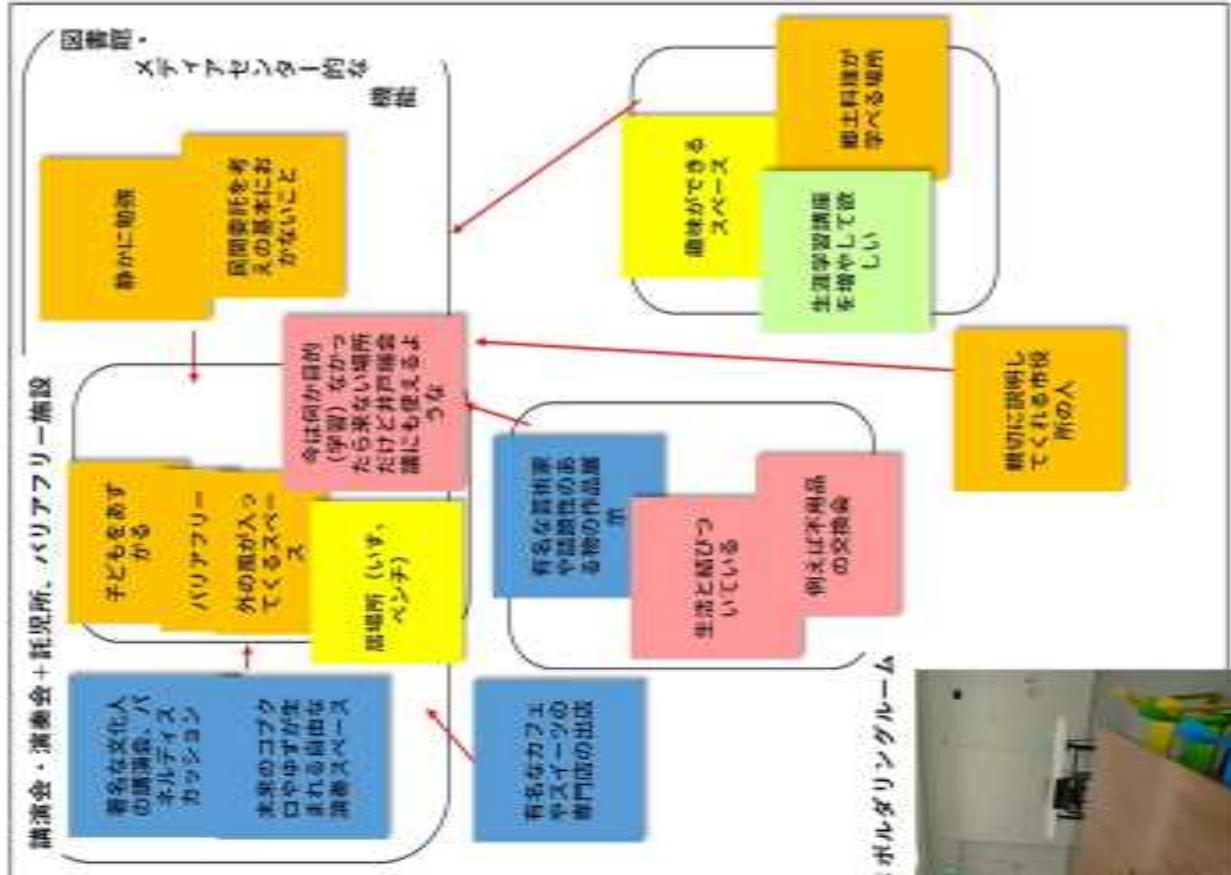
おしゃやれ  
な仕切り

豊橋市まちなか図書館：図書館×工作 (ワークショップ)



工作の図書館

海南ノビノス：会議室×ホールディングルーム



## 全ての市民が自由に使用できる (時間・場所・ヒト)の制約が無い空間、 機会

- ・時間：8:00-21:00くらいまでの開館時間
- ・場所：カフェ、会議室、図書館、学習室、フリースペース、乳幼児スペース、ホール
- ・ヒト：全市民全世代

### 海南ノビノス：子どもライブラリー×カフェ×閲覧×休憩



街ヶ谷駅に四  
角公園のよう  
ないろいろで  
きる公園

達成するために  
必要な手段

・お祭り、大  
人、子ども、障  
がい者も全員が  
迅速せずに気軽  
に行ける  
・時間の制約を  
長く利用

図書館、  
ホール  
講座・学習  
市民が企画段  
階から参加し  
て開催する

19時ごろ  
まで開いて  
いる図書館

＜利用できる  
費や時間＞  
時間：夜遅く  
まで

自由に(予  
約手続なし  
じに)入れ  
る勉強部屋

＜図書館＞  
本の数が多く  
雑誌も種類が  
そろっている

→「自由に使用  
制限が無い」

「空間・居場所」

「様々な世代交流」

「出会い」

・気軽に誰で  
も入れる、入  
りたい何かが  
ある。

・時間を共有  
できるものが  
ある

子ども  
(幼児)  
が遊べる  
空間

親子でゆつ  
くりできる  
空間

屋内公園  
祭典  
→イベント  
乳幼児のママ  
たちが集まれ  
る場所

カフェ

自然と一体感  
を得る空間

ATM  
銀行、郵便局

CD、DVDレン  
タル車庫さん  
園地  
イベント、コ  
ンサート

草間に委託す  
るところも

ダンスができ  
る踊りの部  
屋

アスレチック  
のある公園

駐車子庫  
(お好み納  
き庫も)

ホール  
合有名人の  
イベントを  
企画する

駐車子庫  
ホール全体的

「お祭り」

「読書会」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

「お祭り」

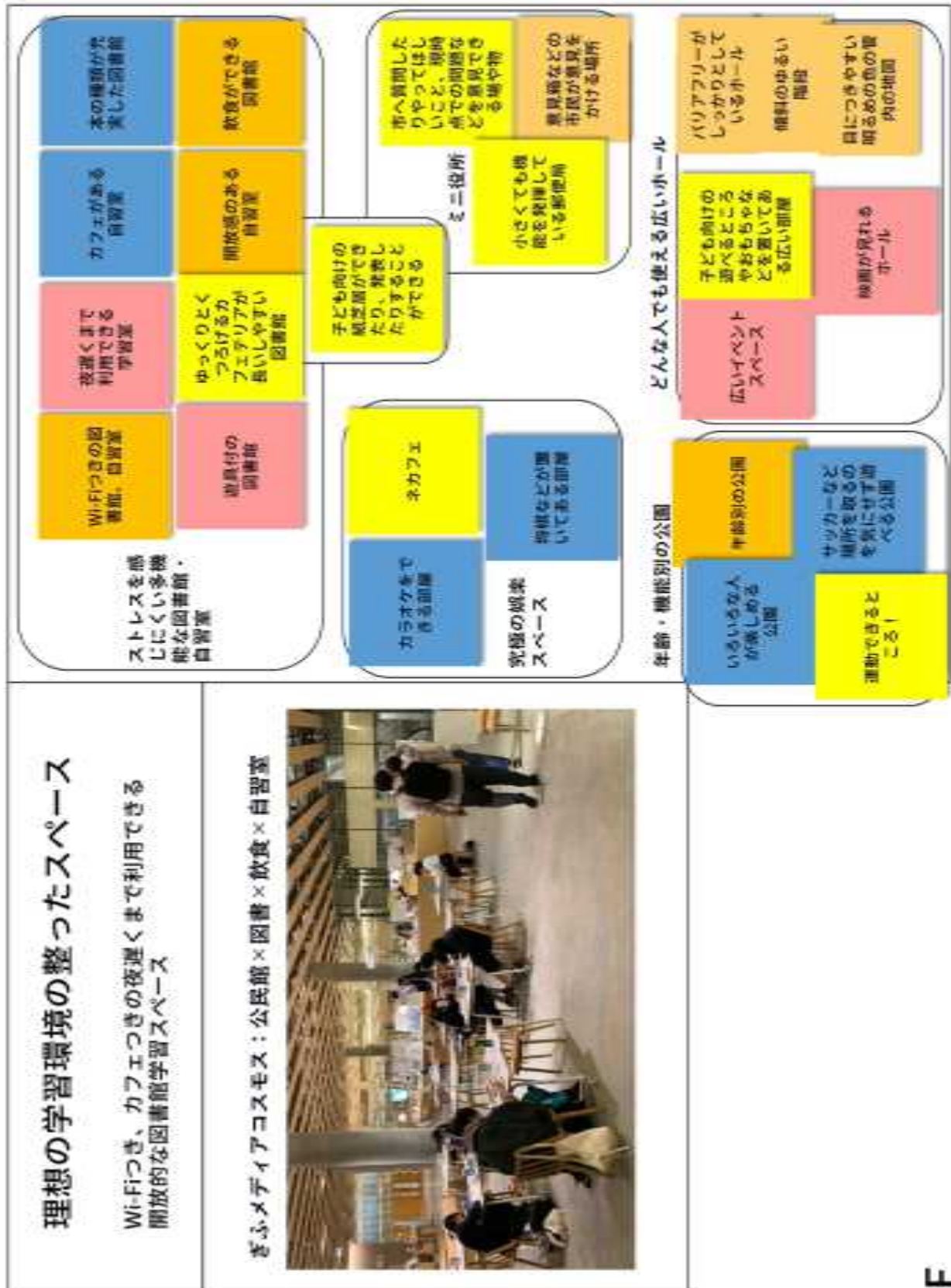
「お祭り」

「お祭り」

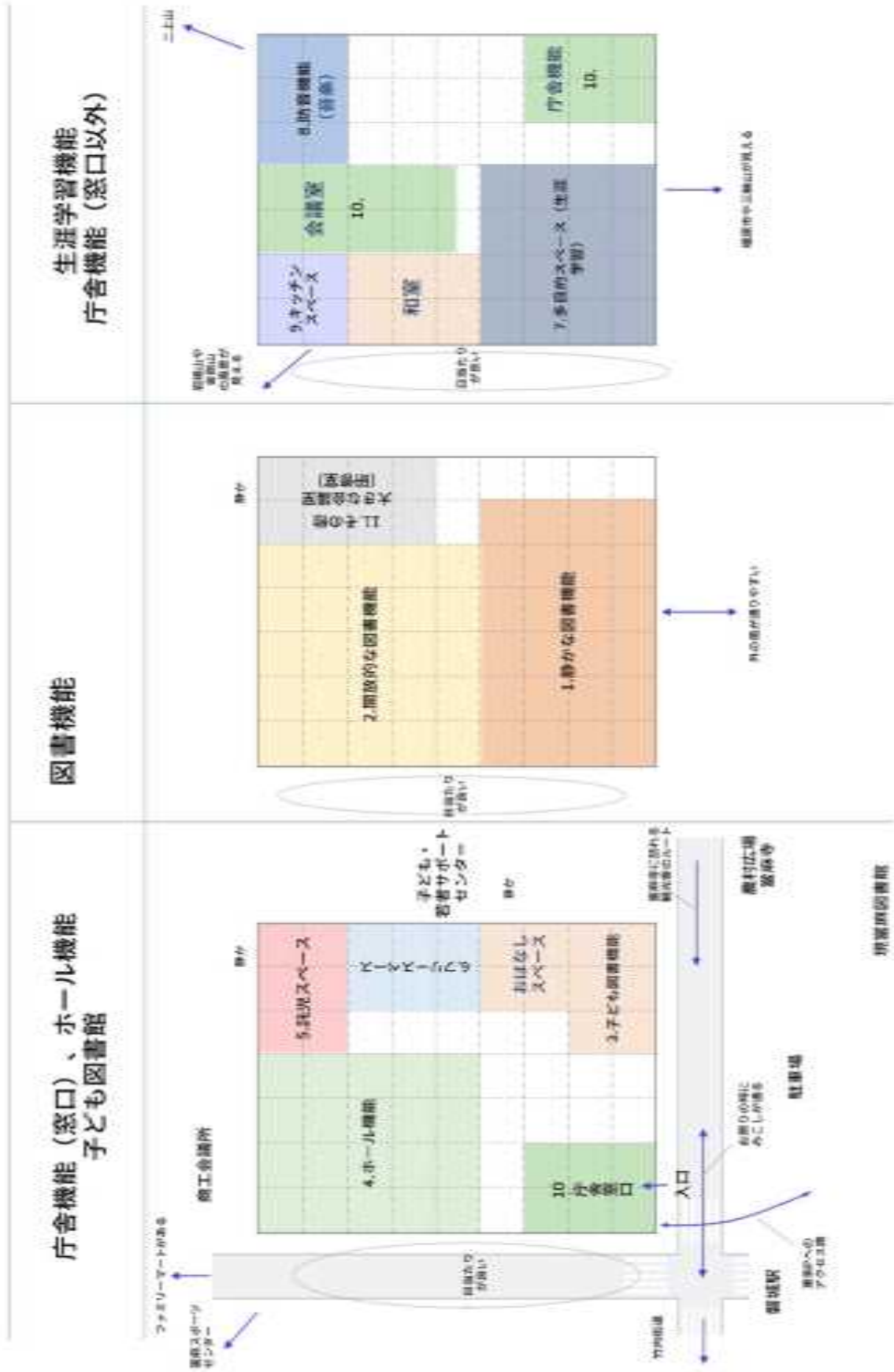
「お祭り」

「お祭り」

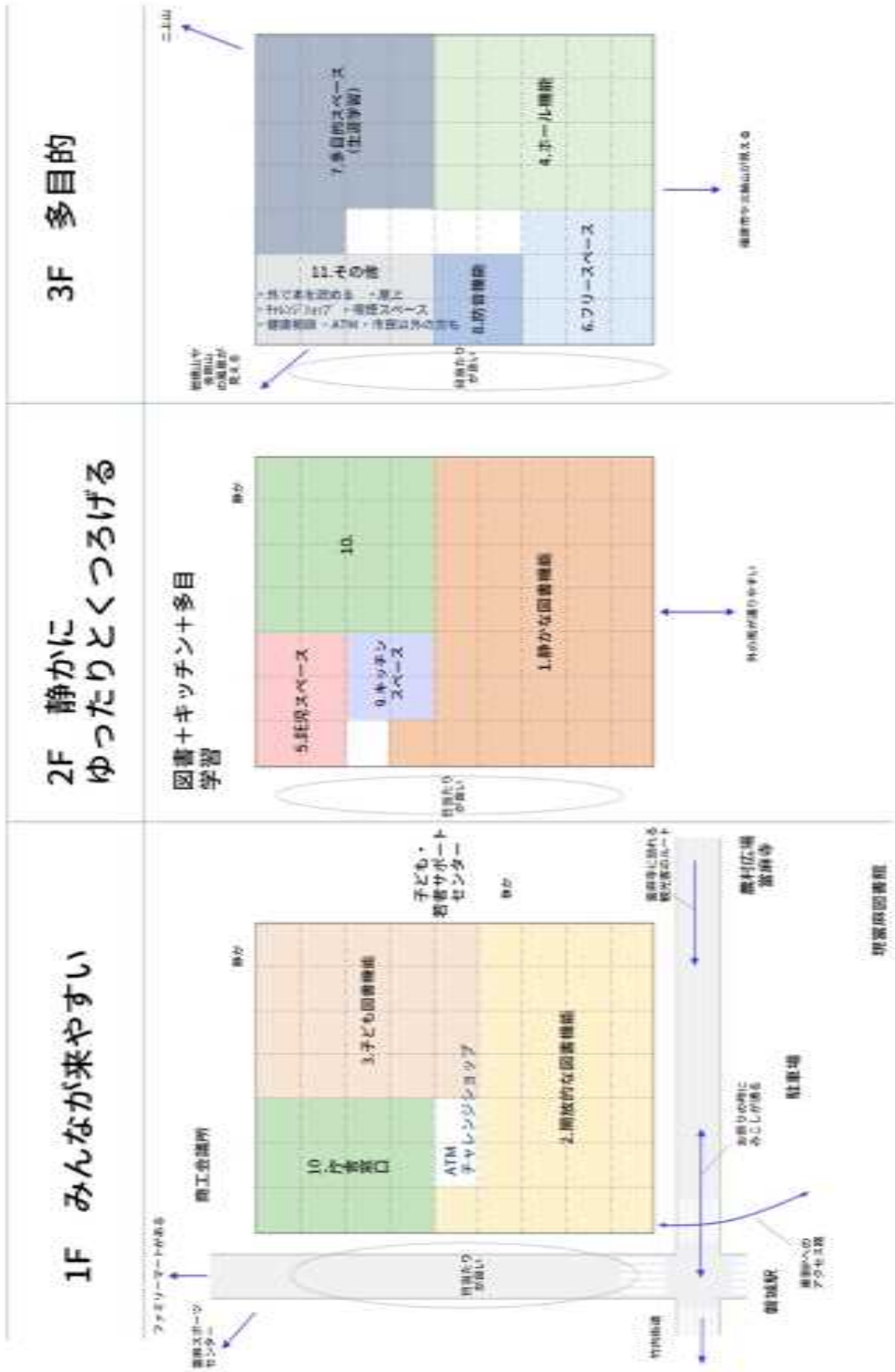




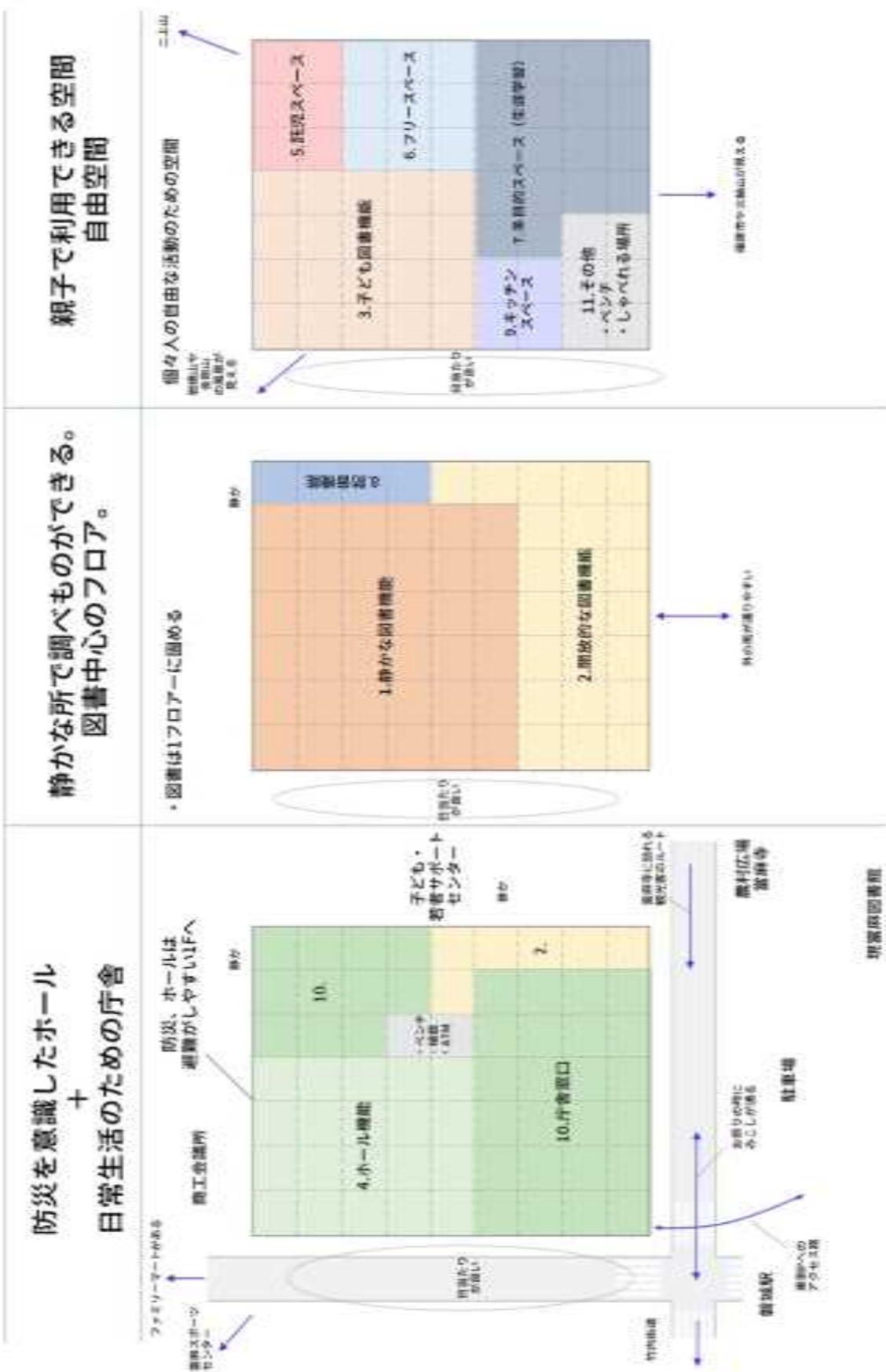
# A だれもがつどい、したしみのあるフロア



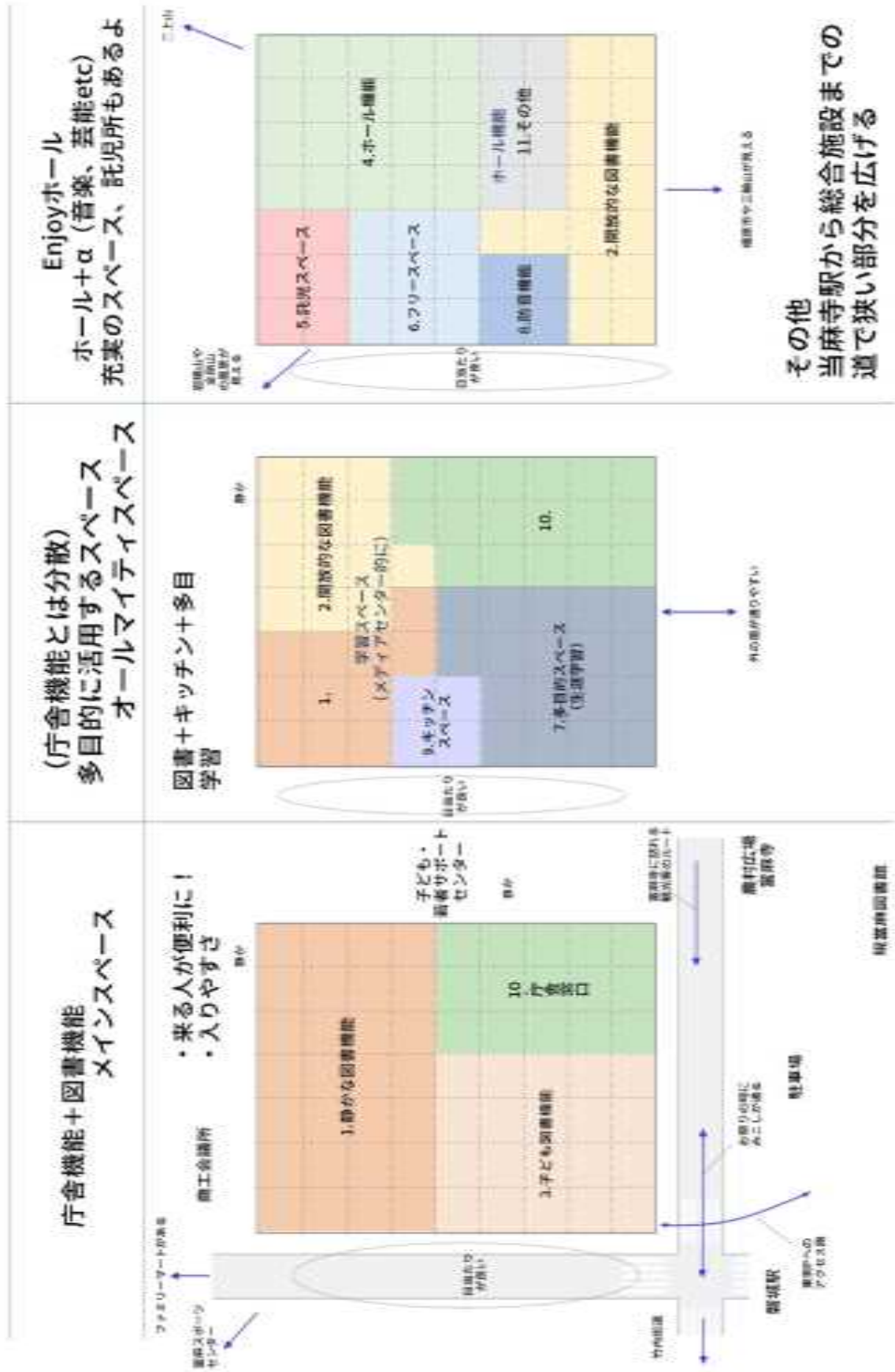
# B 誰もが使いやすい施設



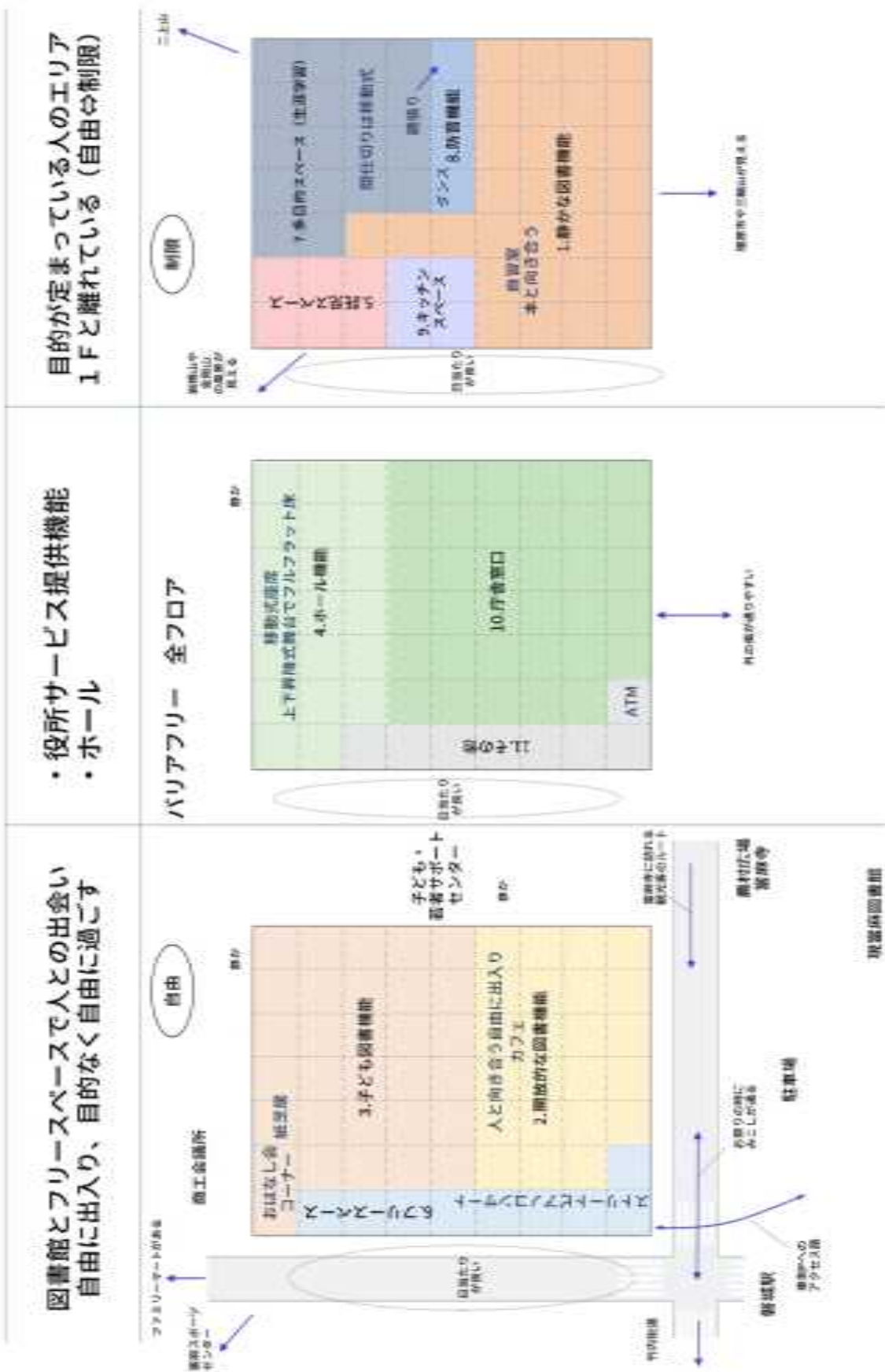
# C みんなの想いがおさまりきれない複合施設



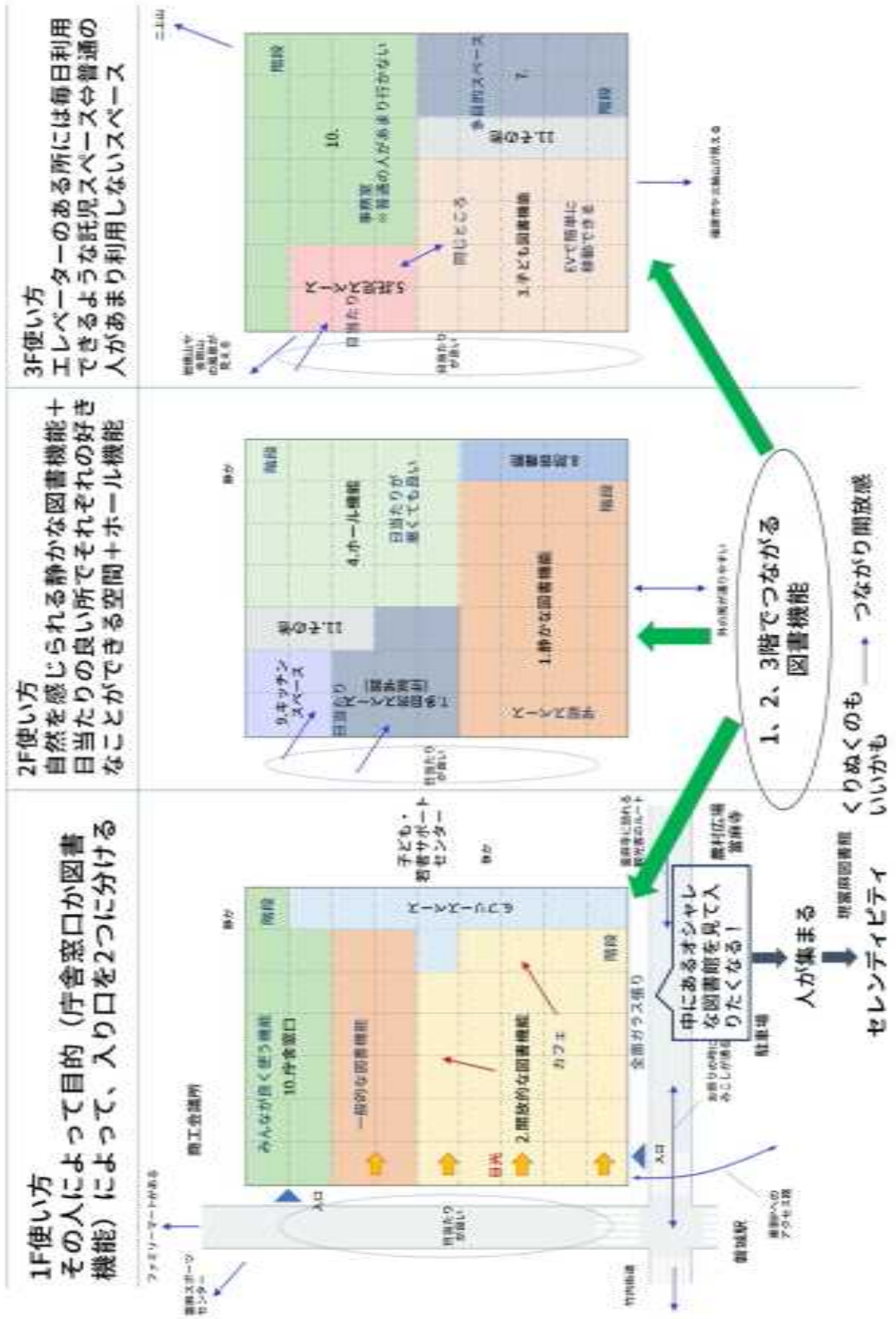
# D 実益+多世代の出会い！豊かな出会い！&ニーズ！



# E 機能別に自由な出会いを楽しむ建物



# F 場所の特性を活かした人が集まる複合施設



## 4 市職員・関連団体インタビューワーク

本計画の検討に当たり、現在の図書館の課題と新たな複合施設に求める施設像を整理するため、インタビューワークを実施しました。以下に実施結果の詳細を掲載します。

- ブックディレクター幅允考氏を招き、テーブルに並べた多種多様な本を囲み、その内容に触れながら、望ましい空間や施設のあり方、運営等について話し合いを行った。

カテゴリ	PART I 『おはなし会・文化会館協議会関係へのインタビュー』
施設要望	あたたかい、落ち着きのある居心地の良い図書館にしたい。
	絵本だから「子ども」ではなく、もっと自由に手に取ってもらえるように大人が真剣に読んでいる姿が子どもの示唆になるような場所。
	手段としての本だけでなく、私も楽しめる絵本が良い。
	共働きの家庭が多いから、家での読み聞かせの機会がなく図書館にも連れていけない。
	おはなし会を図書館でできる場所が欲しい。
	一人で読む場所、みんなで読む場所（声を出せる場所）をつくる。
	図書館は入るといきなり静かで外部と遮断されている。 →内側と外側を曖昧にすることも必要では？
	改めて絵本に触れる場所にしたい。大人の絵本教室。
	交通の便がいい→さっと寄っていくのも、じっくりいるのにも対応できるように手前は寄りやすく、奥はじっくり滞在できる、居心地の良い構造。
	葛城市としての図書館のあり方。
交通の便がいい當麻図書館だけでなく、人口の集中している新庄図書館と合わせたライブラリーを考えてほしい。	
運営について	両方の図書館、学校の図書館をシステムとしてつないで、ホームページ等での情報発信をしてほしい。
本について	新しい視点を増やせる場所。
	見えていないものがたくさんあるから、見えていないものこそ大切にしたい。 (新しい本との出会い)
	知っている本は繰り返し読みたがるが、新しい本を読もうとしない。集中力が続かないようになってきていると思える。
	絵本から、児童文学へと進む入り口になる幼年童話が必要。



カテゴリ	PART2 『保育所・幼稚園等子育て支援関係職員へのインタビュー』
施設要望	図書館は空間として、景色がいい、自然のある外も中も遊具があるような場所がいい。
	大人の必死な姿に子どもも気になるおしゃれなところ、カフェがあったり、騒いでもいいような、でも静かなところもあったり、子どもが隠れる隙間があったり、それぞれの使い方ができる、大人も子どももワクワクできる図書館。
	これからの図書館の使われ方、同じ館で複数の使い方ができる図書館にチャレンジする価値あり。
	家だといろいろと誘惑があるため、なかなか集中できない。集中することができる場所があるといい。（本に集中できる場所、本に限らず集中できる自習室のようなところがあると学生からお年寄りまで来やすいかも）
	たくさんの中から選ぶのが苦手、特化型等、それが分かるようになっていないと○（音楽）。クラシック、特にバロックの楽譜があったらうれしい。
	自分の家でない場所（サードプレイス）としての図書館。
	本との出会いの偶然性を促す場所にしたい。
	集中して読むための環境づくり。（ソファ、床材）
施設要望	図書館の入り口の境界を曖昧にする。 （話せる、飲食できる、走れる、でも静かな場所もある）
運営について	カフェがあったり、託児所があったりすれば来るきっかけに。
本について	面陳列で子どもが物理的に手に取りやすい本。

カテゴリ	PART3 『現施設関係職員へのインタビュー』
施設要望	図書館は明るい雰囲気の良い場所が良かったら、集中する場所（自習室）としての図書館。本のラインナップに貸し手のメッセージが見えると気になる。
	集中してゆっくりじっくり本を読みたい。
	没入感に時間のかかる本を読むことは、時間の流れをゆっくりとした空間にすることが必要。
	ラボ併設の図書館。（本を直せたり）
	目玉になるような、遊具のような、オブジェのような場所（その中で読めたり）いい椅子があるといいな。空間的な気持ちの良さ、居心地の良さが大事。
	ベビーカーのお母さんたちとかが利用できる、空間に余裕が欲しい。
	人や年代によって、図書館に求めるものが違う。（子どもが小さいときはもう少し会話ができる場所だったらな、今は静かな場所であつたらいいな）すみ分けができていない場所。
	本を選ぶことも大切だが、差し出し方（サイン、照明・家具計画）も大切。
	階層分けパソコンも禁止にするような、サイレントルームもありかも。
運営について	コラボ系、何かと併設した場所でないといけない。朝が一番時間ある。
	市内に2館あるからこそ、当麻は児童中心な場所にしてほしい。 新庄は総合図書館としてほしい。
	古びていくことは仕方ない、とにかく狭いたくさんあるよりは、選び抜かれた本がある必要がある。明るくて、窮屈しない場所、ベビーカー、車椅子の方々に来られる場所。
本について	本に集中できる、本と向き合える場にすることが必要。なにか一冊でも刺さるような本を置きたい。

【インタビュー中の写真】

